

第Ⅰ部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況

1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

(1) 沿革

A 学部の沿革 (年譜)

東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
		明治33(1900), 6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904), 9	(3学科) 哲学科 史学科 文学科
東京帝国大学	文学部	明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		大正8(1919), 4・帝国大学令改定(大正7(1918), 12・大学令制定にともない)	
		大正8(1919), 9	(19学科) 国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月~7月」を「4月~3月』とする》	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和4(1929), 7	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学 能率研究室 航空研究所より移管
		昭和21(1946), 3 《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》	
		昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学
東京大学	文学部	昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教学史』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
		昭和26(1951), 4 《昭和26(1951), 4・教養学部より第1回新制学生進学》	(18学科) 「教育学科」を廃止する (昭和24年教育学部設立にともなう措置)

東京大学 文学部	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フラン ス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
	昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
	昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
	昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
	昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
	昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
	昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
	昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
	昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
	昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
	昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
	昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
	昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
	昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
	平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
	平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
	平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語 イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
	平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
	平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教史学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称
	平成28(2016), 4	4学科から1学科に改組 (現在1学科 26専修課程) 人文学科 哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学, イスラム学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学, 言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸論, 西洋古典学, 心理学, 社会心理学, 社会学

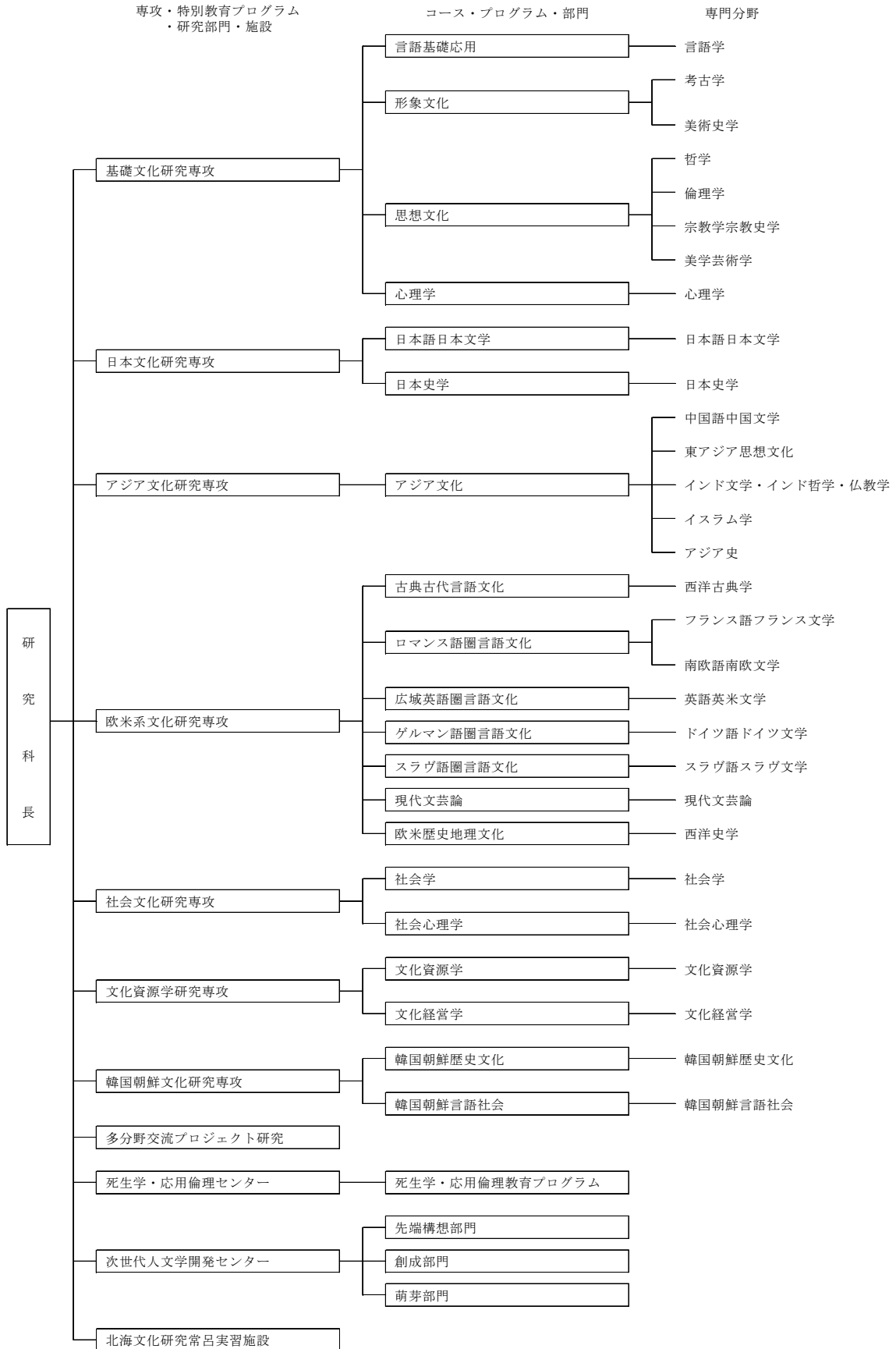
B 人文社会系研究科の沿革 (年譜)

人文科学 研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院 (新制) 設立	人文科学研究科 (24専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学美術学, 心理学, 教育学, 教育心理学, 学校教育学, 教育行政学, 体育学 社会科学研究科 (10専門課程) 公法, 民刑事法, 基礎法学, 政治, 国際関係論, 理論経済学経済史学, 応用経済学, 商業学, 農業経済学, 社会学	
	昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない, 教育学研究科, 法学政治学研 究科, 経済学研究科, 社会学 研究科設立	人文科学研究科 (19専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学美術学, 心理学 社会学研究科 (2専門課程) 国際関係論, 社会学	
	昭和39(1964), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 美学美術学専門課程を改組し, 『美学専門課程』, 『美術学専門課程』設置	
	昭和40(1965), 4	社会学研究科 (3専門課程) 『文化人類学専門課程』設置	
	昭和42(1967), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 『美学専門課程』を『美学芸術学専門課程』に改称	
	昭和49(1974), 4	人文科学研究科 (21専門課程) 『露語露文学専門課程』設置	
	昭和51(1976), 4	社会学研究科 (4専門課程) 『社会心理学専門課程』設置	
	昭和58(1983), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科 (3専門課程) 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替	
	昭和60(1985), 4	人文科学研究科 (20専門課程) 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称	
	昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更	
	昭和63(1988), 4	社会学研究科 (2専攻) 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替	
	人文社会系 研究科	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研 究科の合流による再編にとも ない, 人文科学研究科の『人文 社会系研究科』への名称変更, 社会学研究科の廃止	人文社会系研究科 (5専攻) 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
		平成12(2000), 4	人文社会系研究科 (6専攻) 『文化資源学研究専攻』設置
		平成14(2002), 4	人文社会系研究科 (7専攻) 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
平成16(2004), 4		文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用コース・ 言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替	
平成17(2005), 4		文化交流研究施設を改組し, 『次世代人文学開発センター』を設置	
平成19(2007), 4		欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置	
平成20(2008), 4		韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野及び 韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組	
平成21(2009), 4		『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻・言語 応用コース・言語動態学専門分野』を統合し, 『基礎文化研究専攻・言語基礎応用コ ース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し, 『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国語中国 文学専門分野, 東アジア思想文化専門分野, インド文学・インド哲学・仏教学専門分野, イスラム学専門分野, アジア史専門分野』を設置	
平成23(2011), 4		『死生学・応用倫理センター』の設置	
平成27(2015), 4		『文化資源学研究専攻・形態資料学コース・形態資料学専門分野』と『文化資源学研究 専攻・文字資料学コース・文書学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学・ 文献学専門分野』を統合し, 『文化資源学研究専攻・文化資源学コース・文化資源学専 門分野』に改組	
		(現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース (言語学) 形象文化コース (考古学, 美術学) 思想文化コース (哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史学, 美学芸術学) 心理学コース (心理学) 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース (日本語日本文学) 日本史学コース (日本史学) アジア文化研究専攻 アジア文化コース (中国語中国文学, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学 ・仏教学, イスラム学, アジア史) 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース (西洋古典学) ロマンス語圏言語文化コース (フランス語フランス文学, 南欧語南欧文学) 広域英語圏言語文化コース (英語英文学) ゲルマン語圏言語文化コース (ドイツ語ドイツ文学) スラヴ語圏言語文化コース (スラヴ語スラヴ文学) 現代文芸論コース (現代文芸論) 欧米歴史地理文化コース (西洋史学) 社会文化研究専攻 社会学コース (社会学) 社会心理学コース (社会心理学) 文化資源学研究専攻 文化資源学コース (文化資源学) 文化経営学コース (文化経営学) 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース (韓国朝鮮歴史文化) 韓国朝鮮言語社会コース (韓国朝鮮言語社会) 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター	

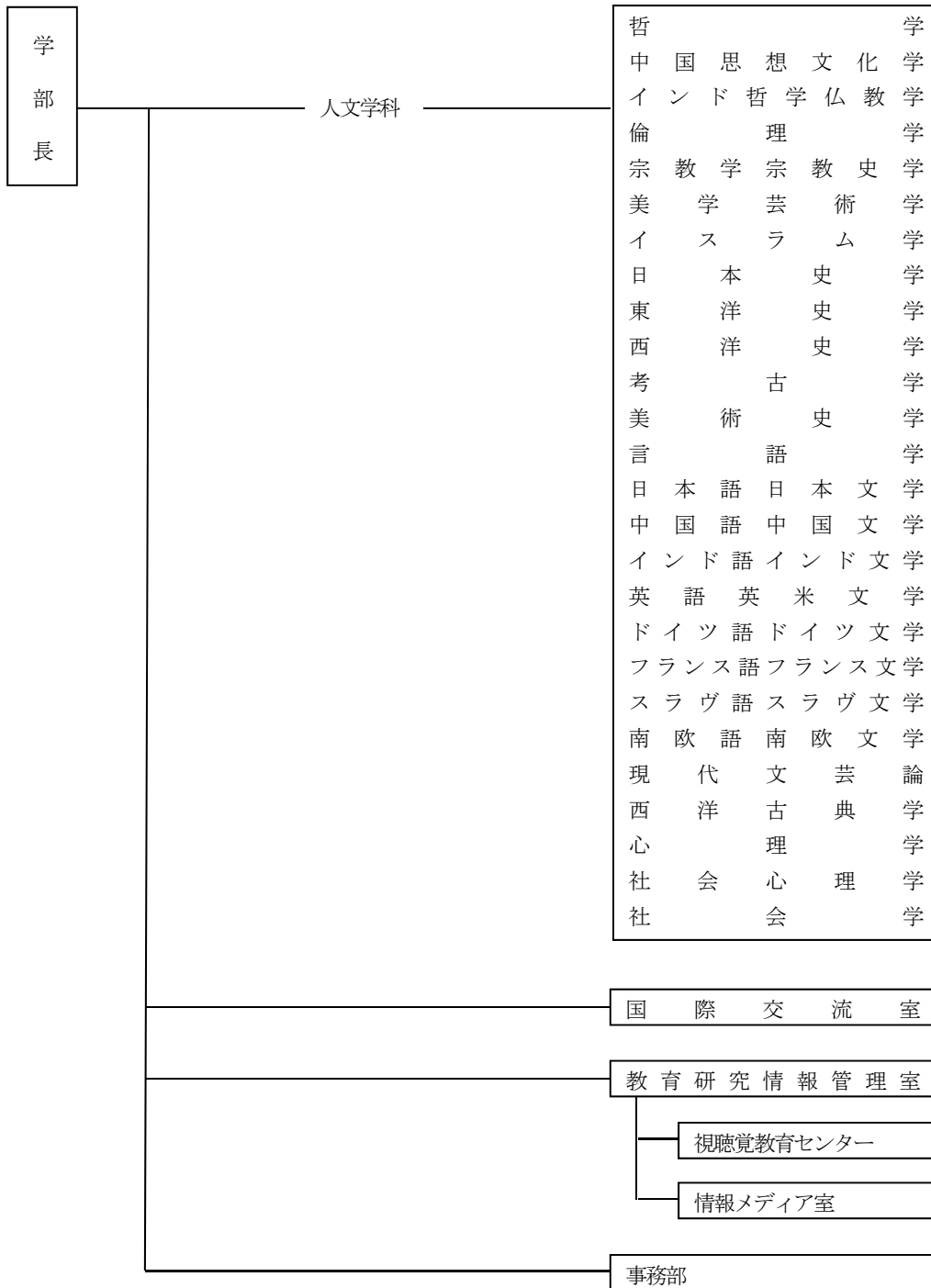
東京大学
大学院

人文社会系
研究科

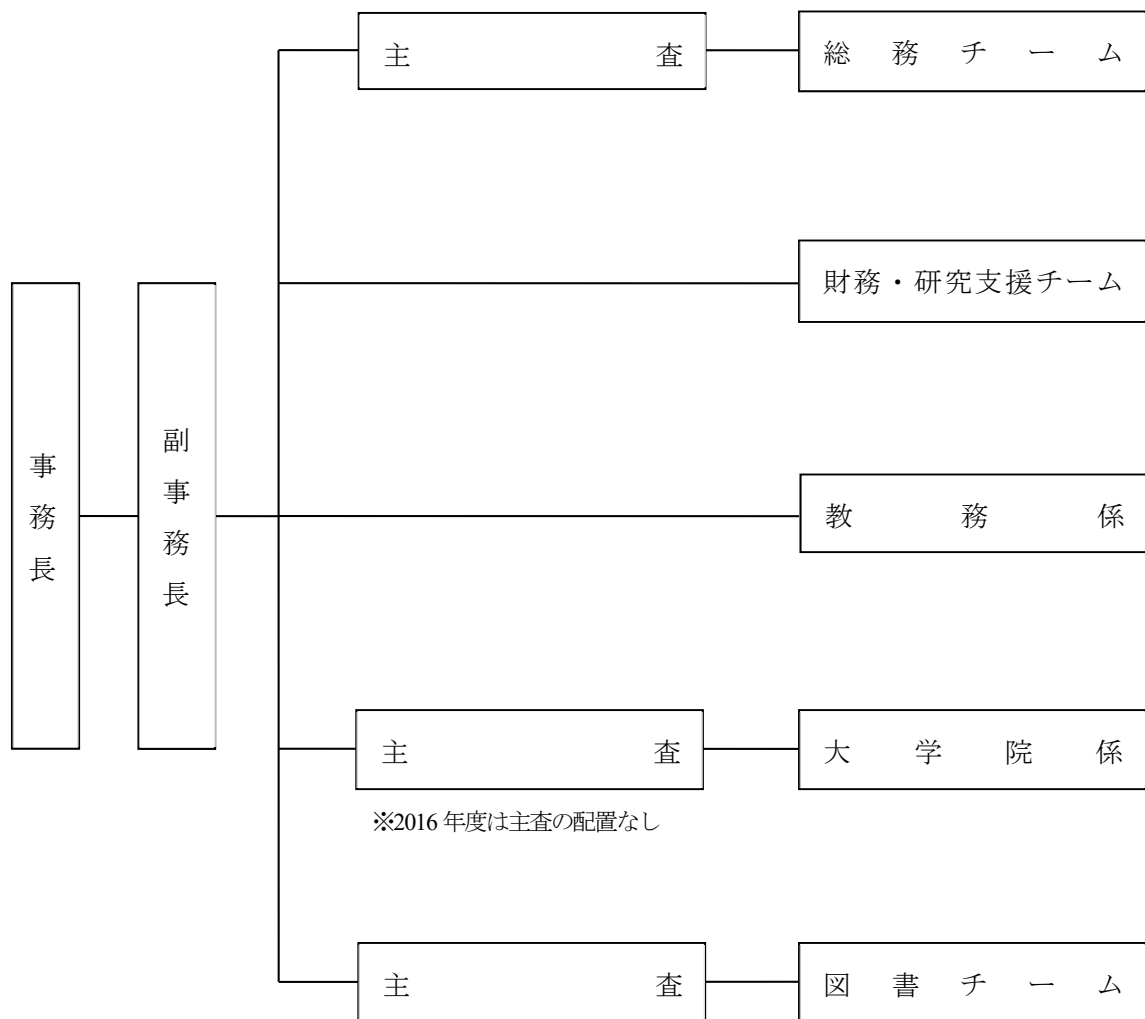
(2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構



(4) 事務組織



(5) 施設・設備

(平成30(2018)年度現在)

法文1号館	建築年	昭和4(1929)・40(1965) 昭和51(1976)	構造 R3-1 構造 R+1
	建物面積	3,964 m ²	総建物面積 10,723 m ²
法文2号館	建築年	昭和4(1929)・42(1967) 昭和51(1976) 昭和56(1981)	構造 R4-1 構造 R+1 構造 S+1
	建物面積	12,857 m ²	総建物面積 16,103 m ²
文学部3号館	建築年	昭和62(1987)	構造 R8-2
	建物面積	4,295 m ²	総建物面積 4,295 m ²
アネックス	建築年	平成9(1997)	構造 S2
	建物面積	580 m ²	総建物面積 580 m ²
総合研究棟	建築年	平成7(1995)	構造 R7
	建物面積	657 m ²	総建物面積 3,942 m ²
赤門総合研究棟	建築年	昭和40(1965)	構造 R8-1
	建物面積	2,611 m ²	総建物面積 12,912 m ²
国際学術総合研究棟	建築年	平成29(2017)	構造 R14-1
	建物面積	379 m ²	総建物面積 8,806 m ²

北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m ²		
	借用	7,911 m ²		
建物	所有	車庫	建築年	昭和41(1966)
				構造 B1
				総建物面積 38 m ²
		資料保存センター	建築年	昭和43(1968)
				構造 W2
				総建物面積 175 m ²
		新学生宿舎	建築年	平成15(2003)
				構造 R2
				総建物面積 338 m ²
	借用	資料館	建築年	昭和42(1967)
				構造 R3
				総建物面積 343 m ²
		研究棟	建築年	平成10(1998)
		(ところ埋蔵文化財センター)		構造 R1
				総建物面積 868 m ²

B 学士入学試験の実施状況

凡例
合格者数
出願者数

専修課程	入学年度				
	平成26(2014)年	平成27(2015)年	平成28(2016)年	平成29(2017)年	平成30(2018)年
哲 学	0 8	1 9	0 9	1 6	0 11
中思文	0 0	0 0	0 1	0 5	0 0
印 哲	1 2	1 5	1 4	2 7	3 4
倫 理	募集なし	募集なし	0 1	0 1	0 3
宗 教	1 3	0 2	2 5	1 3	0 3
美 学	0 5	1 5	0 7	0 9	0 4
イ 学	0 0	1 1	0 0	2 2	0 3
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考 古	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
美術史	0 3	0 5	0 1	1 4	0 1
言 語	1 4	1 2	1 3	0 2	1 5
国 語	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
国 文	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
中 文	1 3	0 1	0 1	1 3	0 0
印 文	1 1	0 0	0 1	1 1	0 1
英 文	0 3	0 4	0 2	2 2	0 2
独 文	0 1	1 2	0 1	0 2	0 2
仏 文	1 5	0 5	0 2	0 2	1 3
スラヴ	1 1	2 3	1 2	1 3	2 4
南欧文	1 1	1 3	1 5	2 2	1 1
現 文	0 2	0 0	0 1	1 2	0 2
西古典	2 2	0 2	1 1	0 2	1 3
心 理	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社 心	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
社 会	2 11	2 10	1 10	0 8	募集なし
合 計	12 55	11 59	8 57	15 66	9 52

C 大学院への入・進学

平成28(2016)年度 大学院学生数

(注)()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程				
			2016年	2015年	14年以前	計	2016年	2015年	2014年	13年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	7 (3) ①	1	4	12 (3) ②	2	1 (1) ①	2 (1)	9 (3) ②	14 (5) ③
	形象文化	考古学	3	3 (2) ①	1 (1)	7 (3) ①	3			5 (1)	8 (1)
		美術史学	2 (1)	5 (4) ①	1	8 (5) ②	3 (2)	2 (1) ①	2 (1)	5 (5)	12 (9) ①
	思想文化	哲学	3 (1)	3	6 (3)	12 (4)	3	5 (1)	4	10 (1)	22 (2)
		倫理学	3	2 (1)	1	6 (1)	1	3 (1)	2 (1)	1	7 (2)
		宗教学宗教史学	7 (6) ③	5 (1)	2	14 (7) ③	5 (2) ①	2 (1)	2 (1) ①	15 (4) ①	24 (8) ③
		美学芸術学	2 (1) ①	4 (2) ②	2	8 (3) ③	2 (1) ①	1 (1)	1 (1)	5	9 (3) ①
心理学	心理学	1	1 (1)		2 (1)		2 (2) ①	1	1	4 (2) ①	
日本文化研究	日本語日本文学	7 (4) ③	7 (2)	2	16 (6) ③	9 (3) ②	5 (1) ③	1	11 (9) ③	26 (13) ⑨	
	日本史学	11 (3) ①	7 (2) ①	2 (1)	20 (6) ②	7 (1) ①	5 (2) ①	5 (2)	9 (4) ②	26 (9) ④	
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	2 (1) ①	4 (3) ②	3 (3) ③	9 (7) ⑥	1 (1) ①	1 (1)	2 (1) ①	9 (8) ④	13 (11) ⑥
		東アジア思想文化	3 (1) ①	1 (1) ①		4 (2) ②	3 (2) ②	1 (1) ①	2 (1) ②	2	8 (4) ⑤
		インド文学・インド哲学・仏教学	4 (1) ①	1	2	7 (1) ①	6 (2) ④	4 (2) ①	2	9 (1) ④	21 (5) ⑨
		イスラム学	3 (1)	1		4 (1)	2			2 (2)	4 (2)
		アジア史	4 (1) ①	5 (2) ①	2 (1)	11 (4) ②	4 (1)	2 (1) ①	5 (3) ③	10 (5) ①	21 (10) ⑤
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	4	2		6	1 (1)	1	1 (1)	4 (1)	7 (3)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	5 (3)	4	3 (1)	12 (4)	4 (4)	2	1 (1)	5 (2)	12 (7)
		南欧語南欧文学	3 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (3)		1		1 (1)	2 (1)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	5 (2)	6 (1)	5 (3)	16 (6)	5 (2)	6 (2)	4 (2)	14 (9)	29 (15)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	2 (1)	5 (2)		7 (3)	2	3	2 (1)	11 (7)	18 (8)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学		3 (1)	1	4 (1)	1		2 (2)	5 (1)	8 (3)
	現代文芸論	現代文芸論	5 (3) ②	8 (5) ②	4 (1)	17 (9) ②	6 (2) ①	5 (4) ②	5 (4) ③	11 (4) ①	27 (14) ⑦
欧米歴史地理文化	西洋史学	7 (3)	9 (2)	3	19 (5)	3	4 (1)	5 (1)	8 (1)	20 (3)	
社会文化研究	社会学	社会学	8 (3) ①	9 (2) ②	4 (3) ①	21 (8) ④	3	3 (1) ①	8 (1) ①	6 (2) ①	20 (4) ③
	社会心理学	社会心理学	4 (1)	5 (2)	1 (1)	10 (4)	3 (1)	1	2	5 (3) ③	11 (4) ④
文化資源学研究	文化資源学	文化資源学	3 (2)	6 (4)		9 (6)	3 (2)	1 (1)			4 (3)
	文化経営学	文化経営学	5 (3) ①	2 (2) ①	7 (4) ①	14 (9) ③		2 (1) ①	3 (3) ①	5 (4) ②	10 (8) ④
	形態資料学	形態資料学			1	1				3 (2)	3 (2)
	文字資料学	文書学								1 (1)	1 (1)
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	1	1 (1) ①		2 (1) ①	3 (3) ①	2	1	4 (4) ③	10 (7) ⑥
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	4 (3) ④	3 (3) ②	2 (1)	9 (7) ⑥	3 (3) ③		4 (3) ②	8 (8) ⑥	15 (14) ⑪
合計			118 (49) ⑱	114 (47) ⑱	60 (24) ⑦	292 (120) ④③	88 (33) ⑱	65 (26) ⑱	69 (31) ⑱	194 (93) ③③	416 (183) ⑥②

平成29(2017)年度 大学院学生数

(注)()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程				
			2017年	2016年	15年以前	計	2017年	2016年	2015年	14年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言語学	6 (4) ①	7 (3) ①		13 (7) ②	3	2	1 (1) ①	10 (4) ②	16 (5) ③
	形象文化	考古学	3 (2)	3	2 (2) ①	8 (4) ①	3 (1) ①	3		3 (1)	9 (2) ①
		美術史学	5 (4)	2 (1)	2 (2)	9 (7)	3 (2) ②	3 (2)	2 (1) ①	6 (5)	14 (10) ③
	思想文化	哲学	7	3 (1)	3 (1)	13 (2)	3 (1)	3	5 (1)	11	22 (2)
		倫理学		3		3	1 (1)	1	3 (1)	3 (1)	8 (3)
		宗教学宗教史学	7 (3) ①	7 (6) ③	1	15 (9) ④	4 (1)	5 (2) ①	2 (1)	15 (3) ②	26 (7) ③
		美学芸術学	5 (3) ②	2 (1) ①	3 (1) ①	10 (5) ④	3 (3) ②	2 (1) ①	1 (1)	3	9 (5) ③
心理学	心理学	8 (5) ①	1		9 (5) ①	1 (1)		2 (2) ①	1	4 (3) ①	
日本文化研究	日本語日本文学	10 (6) ③	7 (4) ③	5	22 (10) ⑥	3 (1) ①	8 (3) ②	5 (1) ③	8 (6) ④	24 (11) ⑩	
	日本史学	8 (1)	11 (3) ①	3 (1) ①	22 (5) ②	4 (2) ②	7 (1) ①	5 (2) ①	9 (4) ①	25 (9) ⑤	
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	4 (1) ①	2 (1) ①	1 (1)	7 (3) ②	4 (3) ②	1 (1) ①	1 (1)	9 (8) ④	15 (13) ⑦
		東アジア思想文化	1	3 (1) ①	1 (1) ①	5 (2) ②	1 ①	3 (2) ②	1 (1) ①	4 (1) ②	9 (4) ⑥
		インド文学・インド哲学・仏教学	6 (1)	4 (1) ①	1	11 (2) ①	1	6 (2) ④	4 (2) ①	7 ①	18 (4) ⑥
		イスラム学	4	2 (1)		6 (1)	1	2		2 (2)	5 (2)
		アジア史		4 (1) ①	1 (1)	5 (2) ①	6 (2) ②	4 (1)	2 (1) ①	12 (7) ④	24 (11) ⑦
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学		4	1	5	2 (1)	1 (1)	1	5 (2)	9 (4)
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	5 (2) ①	5 (3)	3	13 (5) ①	2 (1)	3 (3)	2	5 (2)	12 (6)
		南欧語南欧文学	1	3 (1)	1 (1)	5 (2)	1 (1)		1	1 (1)	3 (2)
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	3	5 (2)	3	11 (2)	6 (3)	5 (2)	6 (2)	11 (5)	28 (12)
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	5 (2)	2 (1)	2 (1)	9 (4)	1 (1)	2	3	12 (8)	18 (9)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	2 (1)		1	3 (1)	2 (1)	1		3 (2)	6 (3)
	現代文芸論	現代文芸論	7 (2) ①	5 (3)	5 (1) ①	17 (6) ②	3 (1)	5 (2)	5 (4) ②	12 (6) ④	25 (13) ⑥
欧米歴史地理文化	西洋史学	9	7 (3)	1 (1)	17 (4)	4	3	4 (1)	11 (1)	22 (2)	
社会文化研究	社会学	8 (3) ③	8 (3) ①	2	18 (6) ④	6 (2) ①	3	3 (1) ①	9 (2) ①	21 (5) ③	
	社会心理学	3	4 (1)	2	9 (1)	1	3 (1)	1	4 (1) ②	9 (2) ②	
文化資源学研究	文化資源学	5 (3)	3 (2)	1	9 (5)	1 (1)	3 (2)	1 (1)		5 (4)	
	文化経営学	4 (1)	5 (3) ①	3 (1)	12 (5) ①	2 (2)		2 (1) ①	5 (5) ②	9 (8) ③	
	形態資料学								2 (1)	2 (1)	
	文字資料学								1 (1)	1 (1)	
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化		1		1	2 (1) ②	1 (1)	2 ①	4 (3) ④	9 (5) ⑦	
	韓国朝鮮言語社会	3 (2) ①	4 (3) ④	1 (1)	8 (6) ⑤	2 (2) ①	1 (1) ①		10 (9) ⑦	13 (12) ⑨	
合計			129 (46) ⑬	117 (48) ⑱	49 (16) ⑤	295 (111) ⑳	76 (35) ⑦	81 (28) ⑬	65 (26) ⑱	198 (91) ④①	420 (180) ⑥⑨

C 学部卒業生の就職状況

平成28(2016)年3月卒業者

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
文学部全体	7 (2)	2 (0)	9 (3)	6 (4)	19 (7)	11 (5)	38 (13)	13 (2)	8 (1)	2 (2)	26 (8)	25 (5)	7 (3)	16 (6)	1 (0)	14 (4)

(思想文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
哲学					3 (1)		1				1	1				
中国思想文化学																1
インド哲学仏教学					1	1					1					
倫理学			1					2				1				
宗教学宗教史学	1		1				3 (1)					3 (1)	1	5 (2)		
美学芸術学	1		1	2 (1)			1 (1)				3 (2)	2	1 (1)			1 (1)
イスラム学																
(思想文化学科 計)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (1)	4 (1)	1 (0)	7 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	7 (1)	2 (1)	5 (2)	1 (0)	1 (1)

(歴史文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
日本史学		1		1	3 (1)		1	1			2 (2)	2	1			
東洋史学	1 (1)					2	2 (1)									1
西洋史学						1 (1)	7 (2)		1		3 (1)	4 (1)	1 (1)	2		1
考古学														1		
美術史学			1 (1)					1				1	1	1 (1)		
(歴史文化学科 計)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	3 (1)	10 (3)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	5 (3)	8 (1)	3 (1)	4 (1)	0 (0)	2 (0)

(言語文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
言語学							2	1 (1)								2 (1)
日本語日本文学(国語学)	1						1 (1)		1			1				
日本語日本文学(国文学)	2 (1)				1 (1)	2 (1)	2 (1)				1	2 (1)		1 (1)		2
中国語中国文学					1				1							
インド語インド文学																
英語英米文学	1		2				5 (1)	2	1		3	2				2
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学								1 (1)				1				
スラヴ語スラヴ文学																
南欧語南欧文学																
現代文芸論		1														1 (1)
西洋古典学					1									1		1
(言語文化学科 計)	4 (1)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (1)	2 (1)	10 (3)	4 (2)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	6 (1)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	8 (2)

(行動文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
心理学			1	1 (1)	2	2	3 (1)	3	1	1 (1)	1		1 (1)	2 (1)		
社会心理学			1 (1)		1	3 (3)	3 (2)	2	1 (1)		5 (1)		1			1 (1)
社会学			1 (1)	2 (2)	6 (4)		5 (2)	2	2	1 (1)	6 (2)	4 (2)		2 (1)		2
(行動文化学科 計)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	3 (3)	9 (4)	5 (3)	11 (5)	7 (0)	4 (1)	2 (2)	12 (3)	4 (2)	2 (1)	5 (2)	0 (0)	3 (1)

()内は、女子で内数

平成29(2017)年3月卒業者

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
文学部全体	6 (0)	9 (2)	10 (1)	4 (3)	29 (11)	20 (6)	40 (9)	9 (4)	7 (4)	6 (2)	24 (6)	18 (7)	7 (4)	21 (8)	1 (0)	1 (0)

(思想文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
哲学					1	1					1					1
中国思想文化学																1
インド哲学仏教学																
倫理学						1					1	2	1			
宗教学宗教史学	1			1 (1)	1 (1)		1	1	1			3 (2)		1 (1)		
美学芸術学	1		1		3 (2)		1				1	2 (1)		1 (1)		
イスラム学																
(思想文化学科 計)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	5 (3)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	7 (3)	1 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)

(歴史文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
日本史学	2		1		2	1	3	1 (1)			1	3 (1)	1	2		
東洋史学						2 (1)	4				1	1		1		
西洋史学	1				1		5 (1)	1								1
考古学		1					1 (1)									1
美術史学	1			1 (1)	1					1 (1)	1				3 (2)	
(歴史文化学科 計)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	4 (0)	3 (1)	13 (2)	2 (1)	0 (0)	2 (1)	5 (1)	1 (0)	1 (0)	8 (2)	0 (0)	0 (0)

(言語文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
言語学										2 (1)	1					
日本語日本文学(国語学)					1							1				
日本語日本文学(国文学)	2		1		3		4 (2)	2 (1)	1 (1)			2 (1)	1	2 (2)		
中国語中国文学							1									
インド語インド文学																
英語英米文学				1	3 (2)	3 (1)	5 (1)	2					1 (1)			1
ドイツ語ドイツ文学																
フランス語フランス文学			1		1 (1)				1		1 (1)	1 (1)				
スラヴ語スラヴ文学																
南欧語南欧文学											1 (1)			1 (1)		
現代文芸論						1										
西洋古典学					1		1									
(言語文化学科 計)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	8 (3)	5 (1)	11 (3)	4 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (2)	4 (2)	3 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (0)

(行動文化学科)

専修課程	印刷出版	新聞	放送	広告	情報通信	コンサルタント	金融保険	商社流通	建築不動産	運輸郵便	製造	サービス	教育	官公庁	電気ガス	その他
心理学		1	3 (1)		1	1	5 (1)				2			1		
社会心理学		2 (1)			3 (1)	4 (2)	2		1	1	3 (2)	3 (1)	2 (2)	2		
社会学		3 (1)	3	1 (1)	8 (4)	5 (2)	7 (3)	2 (2)	3 (3)	1	8 (1)	3 (1)		4 (2)	1	
(行動文化学科 計)	0 (0)	6 (2)	6 (1)	1 (1)	12 (5)	10 (4)	14 (4)	2 (2)	4 (3)	2 (0)	13 (3)	6 (2)	2 (2)	7 (2)	1 (0)	0 (0)

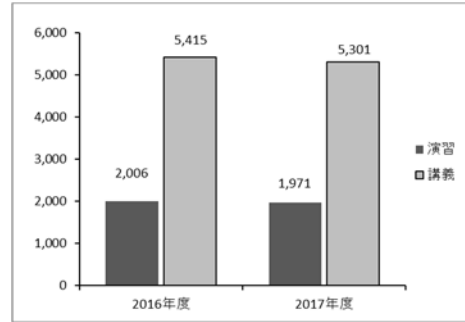
()内は、女子で内数

D 授業改善への取り組み

2009年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室の協力を得て、授業改善アンケートを実施している。集計作業は、教育研究情報管理室が行なっている。このうち2016年度・2017年度に実施したアンケートの回答結果（[Q7]は除く）は下記の通りである。

なお、専攻ごと、学科ごとの集計も行なっているが、ここには、研究科・文学部全体の集計結果のみを掲載する。

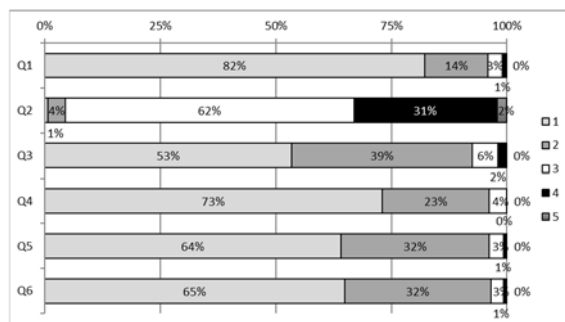
2016-2017年度 アンケート回答総数



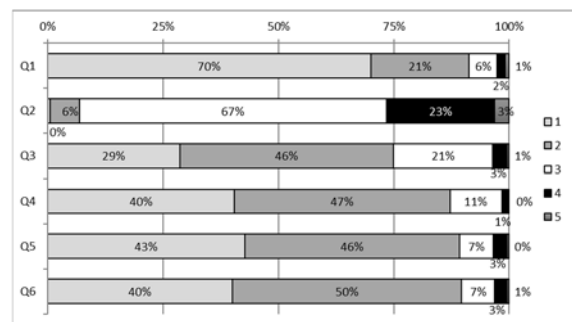
授業改善アンケート質問項目

- [Q1] あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？
 1- 80%以上 2- 79%~60% 3- 59~40% 4- 39%~20% 5- 20%未満
- [Q2] あなたにとって授業の難易度はどうですか？
 1- 易すぎる 2- やや易しい 3- ちょうどよい 4- やや難しい 5- 難すぎる
- [演習 Q3] 授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？
 1- 非常に適切である 2- 適切である
 3- どちらでもない 4- あまり適切でない
 5- まったく適切でない
- [講義 Q3] 教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？
 1- 非常に優れている 2- 優れている
 3- どちらでもない 4- 劣っている
 5- 非常に劣っている
- [演習 Q4] 授業中の質問に対する先生の対応はどうか？
 1- 大変熱心である 2- 概ね熱心である
 3- 普通である 4- あまり熱心でない
 5- 不熱心である
- [講義 Q4] 授業はよく準備・計画されていると思いますか？
 1- とてもよく準備されている 2- よく準備されている
 3- どちらでもない 4- やや準備不足である
 5- 準備不足である
- [Q5] 授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？
 1- 大いに深まった 2- やや深まった 3- どちらでもない 4- あまり深まらなかった
 5- まったく深まらなかった
- [Q6] 授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？
 1- 非常に感じる 2- やや感じる 3- どちらでもない 4- あまり感じない
 5- まったく感じない
- [Q7] 授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば下記および裏面に記入して下さい。（自由記述欄）

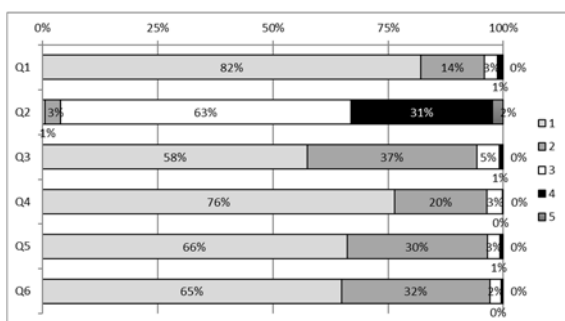
2016年度演習 回答傾向



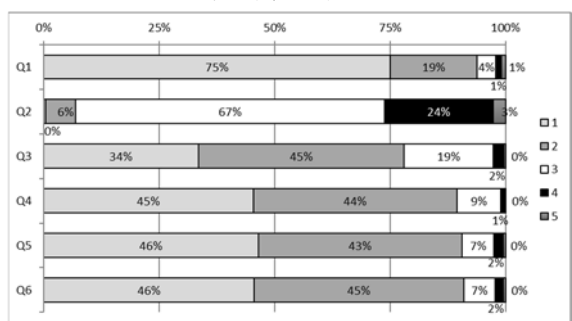
2016年度講義 回答傾向



2017年度演習 回答傾向



2017年度講義 回答傾向



E 後期教養教育科目

総合的教育改革では、1, 2年生だけにとどまらない学部4年間を通しての後期教養教育の実施を構想してきた。現代の人間はさまざまな制約を受けている。日本語しか知らなければ、他言語の思考が日本語の思考とどのように異なるのか考えることができない。ある分野の専門家になっても、他分野のことを全く知らないと、目の前の大事な課題について他分野のひとと効果的な協力をすることができない。これらの制約から解き放って自由になるための知識や技芸が、リベラルアーツである。

これまで東京大学では前期課程の2年間で教養教育をおこなってきたが、教養教育は、専門課程にすすんだあとと続くべきものである。自分の専門が今の社会でどのような位置づけにあり、他の分野とどう連携できるかを、自分とは異なる分野を専門とし、異なる価値観をもつ他者と出会うことによって、自らを相対化する。そのためには、古典を読む、別分野の最先端の研究に触れる、詩にふれる、比較してみる、などさまざまな形が必要である。

このようなリベラルアーツは、さまざまな境界や枠を「往復」するために、専門分野、言語、国籍、所属の境界を横断して複数の領域や文化を行き来する、よりダイナミックな思考が必要である。たとえば他学部聴講は、出講学部のバックグラウンドをもつ学生のなかに、他学部のバックグラウンドをもつ少数の学生、つまりアウェイの学生が入ることである。アウェイの学生にとっては、ホームの学部とアウェイの学部の往復することにより、自らの専門性を相対化する機会が与えられる。また学問の世界と現実の課題、あるいは専門的知性と市民的知性との間の往復は、自らの研究成果が社会のなかでどう埋め込まれ、展開されていくのか想像できる能力を涵養する。これは研究倫理を支える基盤ともなる。

このように、自分とは異なる専門や価値観をもつ他者と対話しながら、自分の価値観を柔軟に組み換えるリベラルアーツ教育を、後期課程のなかで展開するのが後期教養科目である。本学部では、2015年から後期教養科目の設立に参加し、初年度は53科目、2年目は63科目、3年目は70科目を当該科目として登録し、実際に授業を行っている。2019年度からは大学院生の後期教養科目を新たに設定することとなっている。

後期教養教育科目(2016年度)

授業科目名	講義題目	担当教員名	推奨科目	授業科目名	講義題目	担当教員名	推奨科目
哲学特殊講義	いのちとリスクをめぐる倫理	一ノ瀬 正樹		文化交流特殊講義	儒教の歴史	小島 毅	○
哲学特殊講義	死生のケアの現象学	榊原 哲也	○	文化交流特殊講義	日中文化交流史の断面 ——日本漢学の視点から——	牧角 悦子	
インド哲学史概説(1)	インド思想史(1)	丸井 浩		文化人類学	社会人類学方法論	本田 洋	
インド哲学史概説(2)	インド思想史(2)	丸井 浩		日本の思想と宗教(1)	和辻哲郎の初期著作を読む(1)	吉田 真樹	
仏教概論(1)	仏教思想の概要	下田 正弘		日本の思想と宗教(2)	和辻哲郎の初期著作を読む(2)	吉田 真樹	
仏教概論(2)	仏教の歴史の変遷	下田 正弘		原典を読む	E. I. A. ホフマン『砂男』を読む	宮田 眞治	
比較仏教論	アジア比較仏教論	齋輪 顕量	○	死生学概論	死生学の射程	堀江宗正ほか	
インド哲学仏教学特殊講義	上座仏教文献講読	馬場 紀寿		死生学演習 I	臨床死生学・倫理学の諸問題	清水 哲郎 会田 薫子	
倫理学概論(2)	倫理学の展開	頼住 光子	○	死生学演習 II (1)	死別と悲嘆	堀江 宗正	
倫理学概論(1)	近代西洋思想における有限性の問題	中野 裕考		死生学演習 II (2)	スピリチュアリティ研究	堀江 宗正	
芸術学概論	現代の視覚／聴覚文化の芸術学	渡辺 裕	○	死生学演習 III	死生学基礎文献講読	池澤 優	
美学概論	カントからの美学入門	小田部 胤久		死生学演習 IV (1)	質的研究法	会田 薫子	
東洋史学特殊講義	近世東洋アジアと日本	島田 竜登		死生学演習 IV (2)	生命倫理の現在	会田 薫子	
東洋史学特殊講義(1)	朝鮮時代古文書研究	六反田 豊	○	死生学特殊講義	臨床死生学原論	清水 哲郎	
東洋史学特殊講義(2)	朝鮮前期潜運研究	六反田 豊		死生学特殊講義	超高齢社会の医療とケア	会田 薫子	
西洋史学研究入門	西洋史学研究入門	橋場 弦 高山 博 長井 伸仁 勝田 俊輔 池田 嘉郎	○	死生学特殊講義	死生のケアの現象学	榊原 哲也	
西洋史学特殊講義(1)	中世ヨーロッパ世界、4～11世紀	高山 博		死生学特殊講義	事例から読み解く生きづらさ	大塚 類	
西洋史学特殊講義(2)	中世地中海世界	高山 博		応用倫理概論	応用倫理入門	池澤優ほか	○
西洋史学特殊講義	古代ギリシアの国家と社会	橋場 弦		応用倫理演習 I	科学的生命観と人生論的生命観	小松 美彦	
西洋史学特殊講義(1)	ソヴィエト期ロシアの国制と社会(1)	池田 嘉郎		応用倫理演習 II	いのちとリスクをめぐる倫理	一ノ瀬 正樹	
国文学特殊講義	総合日本文学研究	藤原 克己 長島 泰明 渡部 宏 安藤 昌弘 鉄野 和子 高木 和子	○	応用倫理演習 III	環境倫理文献講読	池澤 優	
国文学特殊講義(1)	中世文学と無常観	渡部 泰明		応用倫理演習 IV (1)	環境思想研究	堀江 宗正	
中国語学中国文学特殊講義	魯迅を中心とする現代日中両国の比較文学史	藤井 省三	○	応用倫理演習 IV (2)	未来倫理の探求	堀江 宗正	
印度文学史概説	インド文学史	水野 善文		応用倫理特殊講義	臨床倫理原論	清水 哲郎	
社会心理学概論 1	社会心理学入門：第1部	北村 英哉		応用倫理特殊講義	生と場所の環境倫理	福永 真弓	
韓国朝鮮文化特殊講義(1)	朝鮮時代古文書研究	六反田 豊		応用倫理特殊講義	生命と環境の倫理	桑子 敏雄	
韓国朝鮮文化特殊講義(2)	朝鮮前期潜運研究	六反田 豊		応用倫理特殊講義	現象学的な質的研究の方法論と実践	村上 靖彦	
韓国朝鮮文化特殊講義(1)	韓国の社会人類学	本田 洋		英語圏小説を訳す/読む	英語圏小説を訳す/読む	柴田 元幸	○
韓国朝鮮文化特殊講義(2)	社会人類学方法論	本田 洋		英語で小説を読む	英語で小説を読む	柴田 元幸	
				ヨーロッパ風景文化史	ヨーロッパ風景文化史	河村 英和	
				ヨーロッパ建築文化史	ヨーロッパ建築文化史	河村 英和	
				英国探偵小説のはじまり	英国探偵小説のはじまり	高橋 和久	
				古琉球から世界史へ	古琉球から世界史へ	村井 章介	
				ルネサンス美術の世界	ルネサンス美術の世界	諸川 春樹	

後期教養教育科目(2017年度)

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目	科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
インド哲学史概説(1)	インド思想史(1)	丸井 浩		文化交流特殊講義 I	儒教の歴史	小島 毅	○
インド哲学史概説(2)	インド思想史(2)	丸井 浩		文化交流特殊講義	海峽アジア・ユーラシア交流史	四日市 康博	
仏教概論(1)	仏教思想の概要	下田 正弘		文化人類学	社会人類学概説	本田 洋	
比較仏教論	比較仏教論	養翰 顕量	○	フランス語前期(1)	フランス語前期(1)	秋山 伸子	
インド哲学仏教学特殊講義(1)	中世五山禪に於ける文化と思想(1)	Didier DAVIN		フランス語前期(2)	フランス語前期(2)	秋山 伸子	
インド哲学仏教学特殊講義(2)	中世五山禪に於ける文化と思想(2)	Didier DAVIN		フランス語後期(1)	フランス語後期(1)	横山 安由美	
倫理学概論 I	倫理的思考の諸概念	熊野 純彦	○	原典を読む	カミュ『異邦人』を読む	塚本 昌則	
倫理学概論 II	倫理学の展開	頼住 光子		死生学演習 II	批判的死生学	堀江 宗正	
芸術学概論	ホンモノとニセモノの芸術学	渡辺 裕	○	死生学特殊講義	死生の心理学	堀江 宗正	
美学概論	カントからの美学入門(4)	小田部 胤久		死生学演習 III	死生学基礎文献講読	池澤 優	
東洋史学特殊講義 III	オランダ東インド会社と東南アジア	島田 竜登		死生学演習 I	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐	
東洋史学特殊講義(1)	朝鮮時代史概説	六反田 豊	○	死生学特殊講義	臨床死生学・倫理学の諸問題	会田 薫子 早川 正祐	
東洋史学特殊講義(2)	朝鮮前期漕運研究	六反田 豊		死生学特殊講義	臨床老年死生学入門	会田 薫子	○
西洋史学研究入門	西洋史学研究入門	高山 博	○	死生学特殊講義(1)	共感とケアの哲学	早川 正祐	
		橋場 弦		死生学特殊講義(2)	自律についての関係的な アプローチの展開	早川 正祐	
		長井 伸仁		死生学特殊講義	死生のケアの現象学	榎原 哲也	
		勝田 俊輔		死生学特殊講義	事例から読み解く生きづらさ	大塚 類	
池田 嘉郎							
西洋史学特殊講義(1)	中世ヨーロッパ世界、5~11世紀	高山 博		応用倫理概論	応用倫理入門	池澤優ほか	○
西洋史学特殊講義(2)	フランス中世における王権と諸侯	高山 博		応用倫理演習 I	科学的生命観と人生論的生命観 II	小松 美彦	
西洋史学特殊講義(1)	古代ギリシアの国家と社会	橋場 弦		応用倫理演習 II	科学と疑似科学のモラル	一ノ瀬 正樹	
西洋史学特殊講義 I	アテナイ民主政の諸問題	橋場 弦		応用倫理演習 III	環境倫理文献講読	池澤 優	
西洋史学特殊講義(1)	近現代フランスの政治と社会	長井 伸仁		応用倫理演習 IV(1)	環境思想研究	堀江 宗正	
西洋史学特殊講義(2)	近現代フランスのカトリシズム	長井 伸仁		応用倫理演習 IV(2)	未来倫理の探求	堀江 宗正	
西洋史学特殊講義(1)	ソヴェト期ロシアの国制と社会(1)	池田 嘉郎		応用倫理演習 V	生命倫理と臨床倫理の現在	会田 薫子	
考古学概論 I	考古学概論(1)	大貫 静夫	○	応用倫理特殊講義	質的研究法	会田 薫子	
国文学特殊講義	総合日本文学研究	渡部 泰明	○	応用倫理特殊講義	生と場所の環境倫理	福永 真吾	
		藤原 克己		応用倫理特殊講義	生命の哲学と倫理	森岡 正博	
		長島 弘明		応用倫理特殊講義	現象学的な質的研究	村上 靖彦	
		安藤 宏		英語の小説を訳す/読む	英語の小説を訳す/読む	柴田 元幸	○
		鉄野 昌弘		歌舞伎への招待	歌舞伎への招待	古井戸 秀夫	
高木 和子	日本の演劇と舞踊	日本の演劇と舞踊	古井戸 秀夫				
中国語学中国文学特殊講義 I	鲁迅を中心とする現代日中両国の比較文学史	藤井 省三	○	ヨーロッパ自然・風景史論	ヨーロッパ自然・風景史論	河村 英和	
中国語学中国文学演習 I	古典詩文演習	齋藤 希史		ヨーロッパ都市・建築史論	ヨーロッパ都市・建築史論	河村 英和	
印度文学史概説 I	インド文学史	水野 善文	○	英国探偵小説をめぐる批評言説	英国探偵小説をめぐる批評言説	高橋 和久	
フランス語圏言語文化	フランス文学と映画	野崎 敏		古琉球から世界史へ	古琉球から世界史へ	村井 章介	
現代文芸論演習	ことばと文化(8)	沼野 充義		教養としての西洋美術の主題	教養としての西洋美術の主題	諸川 春樹	
現代文芸論概説	文芸批評理論(11)	大橋 洋一	○				
社会心理学概論(2)	社会心理学入門:第2部	亀田 達也					
社会心理学概論(1)	社会心理学入門:第1部	唐沢 かおり	○				
韓国朝鮮文化特殊講義(1)	朝鮮時代史概説	六反田 豊					
韓国朝鮮文化特殊講義(2)	朝鮮前期漕運研究	六反田 豊					

(3) 国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム

「国際卓越大学院 人文社会系研究科 次世代育成プログラム」は、本研究科各専門分野において蓄積された人文知の基礎の上に立ち、かつてない規模と速度で変化し複雑化する価値観に柔軟に対応しつつ、人類の健全な発展に貢献し得る博士人材の育成を目的とするものである。本研究科諸学における基礎的な研究能力の修得を目的とする専攻・専門分野のプログラムに加えて、新たな研究領域開拓や国際発信等を旨とした本プログラムを履修する二層構造としているのが特徴である。

本プログラムは、修士課程から実践的な研究活動を促進するための「学術活動課題演習」を必修としている他、様々な事象を俯瞰的に見渡し、多様な人々の声に耳を傾け発信する能力を養うために設置された「死生学・応用倫理プログラム」、「人文情報学」、「他研究科開講科目」、「アカデミック・ライティング(英語)」、「新・日本学」などの選択必修科目を履修することとなる。また、学部プログラムを設けて、早期から研究への意欲を高めるため、大学院科目の履修を推奨し、大学院進学後は単位として認定することが可能となっている。

修士課程から奨励金が支給され、博士課程では国内外での研究活動を支援する仕組みも今後整えて行く予定である。学部・修士・博士連携プログラムであるため、学部プログラムからの一貫した履修を原則とするが、大学院入学試験において特に優秀な成績を収めた学生を対象として、修士から選抜も行うこととしている。博士課程進学に当たっては、日本学術振興会特別研究員(DC1)への応募を義務付けている。

2018年4月に開設予定の修士課程プログラムに先立ち、2017年4月に学部プログラムが開設され、30名の学生がプログラムを履修している。また、履修生の中から選考された10名の学生が、第1期生として、修士課程に進学することとなっている。

3. 国際交流

(1) 留学生教育と国際交流活動

A 留学生教育

人文社会系研究科・文学部の留学生数は、直近の5年間では変化はないものの、ピークだった2000年度から見ると大きく減少し、内訳も変わってきている。例えば、国籍では多くを占めていた韓国に代わって中国が半数を超えるようになり、在籍身分では研究生中心だったのが、正規生の割合が大きくなってきている。このような変化に合わせて、日本語教室では、これまでのように大学院入学前の研究生を主対象とするのではなく、学位論文作成を目指す院生をも含めた教育へと徐々に移行を進めている。

日本語科目の開講数は、これまで通り各セメスター日本語教室科目10コマと大学院科目2コマ、集中講座年間約25コマと変更はないが、受け入れ基準や科目配置、科目の内容については見直しを行った。留学生は受講する科目を決定する際、自身の日本語レベルを基準とするのではなく、学習目的によって決定している。そこで、2016年度より、受け入れ基準については柔軟な対応をし、留学生の学習目的を優先することにした。それと並行して、留学生に科目の目的が分かりやすいよう、科目名の変更を行い、各科目の位置付け（スキル別科目、アカデミック科目、専門への入門科目）を明らかにした。さらに、科目の配置や内容の見直しでは、これまで夏季集中講座で行っていた古典講読を「古典入門」として、セメスター中に開講することにし、夏季集中講座には新たに「漢文に挑戦してみよう」と題して文語文・漢文購読のための科目を設置した。春季集中講座には、新たに日本の芸能が学べる講座、日本の習慣、とりわけ研究室の習慣が学べる講座を開講した。前者の芸能を学ぶ講座は、2016年度は「落語鑑賞」を1コマ、2017年度は、落語の他に江戸文化の専門家である古井戸秀夫教授の講義と日本舞踊の専門家による実演を加え、「江戸時代の芸能を学ぼう!」と題して2コマ開講した。後者の習慣を学ぶ講座は、2016年度は「何気ない日本人の習慣や考え方を学ぼう」、2017年度は「留学生のための豊かな留学生生活の過ごし方」と題して各2コマ開講した。また、2017年度からは、新たに、大学院生を講師とした「留学生のための日本史」と題する特別講座を、Sセメスター8コマ、Aセメスター9コマ（うち1コマは、日本史学研究室の鈴木淳教授の講演）開講した。

各種行事については、2015年度Aセメスターから開始した「ランチの会」、年末の「お雑煮会」を継続的に行うとともに、2016年度から夏の「納涼会」を開始した。

年度ごとの受講者数（異なり数）は、2016年度のSセメスター39人、Aセメスターは68人、夏季集中講座40人、春季集中講座33人であった。2017年度のSセメスターは43人、Aセメスターは39人、夏季集中講座は31人、春季集中講座は61人、特別講座は48人であった。いずれの科目、講座も他部局からの参加が増えてきており、その留学生の占める割合は2016年度42%、2017年度49%であった。徐々に日本語教室における教育の存在が全学に伝わってきていることを示している。不定期に行う個人指導は、論文や発表原稿、申請書の日本語指導や授業で実施したことへのフィードバックなどが主で、2016年度は47回、2017年度は12回行った。回数が減ってきているのは、特別に時間を設定して指導するのではなく、必要に応じてその場で指導する機会が増えてきたことによる。

国又は地域別外国人留学生数

各年度5月1日現在

国または地域名		平成25 (2013) 年度	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度
アジア	韓国	60	61	61	53	52
	シンガポール	4	2	1	1	1
	タイ			1		
	台湾	11	11	11	9	8
	中国	59	65	71	74	82
	中国（香港）	2	1	1	2	4
	モンゴル		1	1	1	1
	小計	136	141	147	140	148
中近東	イスラエル	1				
	イラン			1	1	
	小計	1	0	1	1	0
アフリカ	モーリシャス					1
	小計	0	0	0	0	1

オセアニア	オーストラリア				1	2
	小計	0	0	0	1	2
北米	アメリカ合衆国	3	1	2	2	2
	小計	3	1	2	2	2
中南米	パラグアイ	1	1	1	1	1
	ブラジル	1	1		1	1
	ベネズエラ	1				1
	小計	3	2	1	2	3
ヨーロッパ	イギリス			2		1
	イギリス (香港)	1	1		1	
	イタリア	2	1	1		1
	ウクライナ	1				
	オーストリア				1	
	カザフスタン	1	1	1	1	1
	キルギス	1	1			
	スイス	1	2			
	スペイン			1		
	スロベニア					1
	セルビア	1				
	ドイツ			1	1	
	フィンランド		1	3	1	
	フランス	2	3	1	2	1
	ポーランド	3	1	2	3	3
	ルーマニア	1				
	ロシア	2	3	3	2	2
	小計	16	14	15	12	10
合計		159	158	166	158	166

B 留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

●海外へ留学・修学した学部生

年度	海外留学・修学者の合計	内訳			
		アメリカ	イギリス	カナダ	その他
平成26 (2014) 年度	海外修学 4名	2名			クウェート 1名 フィリピン 1名 オーストラリア 4名
	留学 9名	1名			シンガポール 1名 スイス 1名 ドイツ 1名 フィンランド 1名
平成27 (2015) 年度	海外修学 11名	5名	3名		クウェート 1名 バレスチナ自治区 1名 メキシコ 1名 オーストラリア 1名 オランダ 3名 スイス 2名
	留学 17名	1名	6名		デンマーク 1名 フィンランド 1名 フランス 1名 ロシア 1名
平成28 (2016) 年度	海外修学 5名	3名	2名		
	留学 12名	3名	3名		インドネシア 1名 オーストラリア 1名 スイス 1名 スペイン 1名 フィンランド 1名 フランス 1名
平成29 (2017) 年度	海外修学 8名	2名	2名	1名	イスラエル 1名 ドイツ 1名 メキシコ 1名
	留学 37名	4名	8名		オーストラリア 2名 オランダ 1名 韓国 4名 スイス 1名 スウェーデン 1名 台湾 1名 中国 2名 デンマーク 3名 ドイツ 2名 ニュージーランド 2名 フィンランド 1名 フランス 3名 香港 1名 ロシア 1名

●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生 身分	異動区分名	計	内訳												
				韓国	台湾	中国	アメリカ	フィリピン	イギリス	イタリア	オーストリア	スイス	ドイツ	フランス	ロシア	その他
平成26 (2014) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3													スペイン 1名 チェコ 2名
		留学	2									1				ベルギー 1名
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	41	3	1	2	6	2	6		3	1	4	7		インド 1名 ベトナム 1名 イラン 1名 メキシコ 1名
留学		9	1			1		2	2			1	2			
研究指導委託		13				2			1			1	4	1	インド 1名 トルコ 1名 スペイン 1名 デンマーク 1名	
平成27 (2015) 年度	修士課程	休学(海外修学)	3				1									チェコ 1名 ベルギー 1名
		留学	7						3			1				オーストラリア 1名 チリ 1名 フィンランド 1名
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	31	2		2	7	1	3	2	1	1	3	3	1	ベトナム 1名 イラン 1名 トルコ 1名 スペイン 1名
留学		7						2			1	1	3			
研究指導委託		8						1				5	1		インド 1名	
平成28 (2016) 年度	修士課程	休学(海外修学)	0													
		留学	8						6				1			オランダ 1名
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	28	2		2	8		3	2	1	1	2	3		スペイン 1名 チェコ 1名 トルコ 1名 ベトナム 1名
留学		6	1					2				3				
研究指導委託		9			1		1				2		1		イラン 1名 ジョージア 1名	
平成29 (2017) 年度	修士課程	休学(海外修学)	2											1		チェコ 1名
		留学	4						1			1				香港 2名
		研究指導委託	0													
	博士課程	休学(海外修学)	32	1		1	8		6	1			5	7	1	エジプト 1名 フィンランド 1名
留学		11	2		1	1		2				2	1		スペイン 1名 ベトナム 1名	
研究指導委託		9				2					3	1	1		インド 1名 ポーランド 1名	

C 外国人研究員受け入れ

本学は、多くの海外諸機関と学術協定を結んでおり、研究者の交流も活発に行われている。

毎年、海外から研究者を人文社会系研究科内規によって人文社会系研究科外国人研究員として受け入れている。

●外国人研究員(国籍別人数)

(※文学部/大学院人文社会系研究科内規による)

国または地域名	平成 25 (2013)年度	平成 26 (2014)年度	平成 27 (2015)年度	平成 28 (2016)年度	平成 29 (2017)年度
インド	1	1			
韓国	7	6	3	5	4
スリランカ	1				
台湾		2		2	3
中国	14	13	16	15	10
フィリピン			1	1	
イスラエル		1	1	2	3
モーリシャス					1
オーストラリア	1	1	1		
アメリカ合衆国	1	6	10	5	4
カナダ		2			
エクアドル					1
イギリス	1	2			
イタリア	1	1	2		
エストニア					1
オーストリア		1	1	1	
オランダ			1		2
スイス					1
スペイン				1	
ドイツ	1		4	4	1
ハンガリー		1	1		
フランス	2	2	3	2	2
ブルガリア	1			1	
ポーランド	4	3	5	2	4
ルーマニア		1			
ロシア		1	1	1	3
計	35	44	50	42	40

D 夏期・冬期特別プログラム

文学部では、2014年1月に英国・セインズベリー日本藝術研究所との間で部局間学術交流協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、14年度から夏期および冬期特別プログラムを実施している。夏期特別プログラムは、文学部がホストとなり、夏期の授業休止期間(9月)を利用して、英国を始めとする欧州等の各地から学部生4~5名を東大本郷キャンパスと研究科附属北海文化常呂実習施設(北海道北見市)に招き、英語を使用言語としながら、座学、遺跡の発掘体験、博物館・美術館見学、史跡踏査、グループ・ワーク等を通して、考古学・美術史学・文化資源学等を学んでいる。冬期特別プログラム(2月)は、反対にセインズベリー研究所がホストとなり、東大の学部生5名が、ロンドンとセインズベリー研究所が所在する英国南東部のノーフォーク州を訪れ、同様の学習と交流体験を積んだ。

本プログラムは、全学の学部課程に開かれているため、東大側の参加学生は文学部に限られず、法学部・理学部・教養学部(前後期)からの参加もあった。約2週間にわたるプログラム期間中は、東大と海外の学生たちはホテルや宿舎で同室となるため、文字通り寝食を共にしながら、グループ・ワークや体験学習・実習等の様々な国際交流体験を積む。そのため最初は英語での会話や議論に参加しづらかった学生も、終了近くになると互いに学問や人生観を戦わずすまになる。参加した学生にはプログラム終了時にレポートの提出を課しているが、みな一様にプログラムへの参

加経験を誇りに思っており、その多くがプログラム終了後も引き続き相互交流を続けている。そのため複数回の参加希望も多い。

参加学生の枠は限られているが、その分丁寧なスケジュールングにより濃密な体験を経ることで、高い教育効果を上げることができている。

特別プログラム	期間・実施場所	参加学生
2016年度夏期	2016年9月9日～23日 東京/常呂実習施設	東大5名(文3、前期1、法1) 海外4名(英3、スイス1)
2016年度冬期	2017年2月11日～24日 ロンドン/ノーフォーク州	東大5名(文3、前期1、教養1) 海外5名(英5)
2017年度夏期	2017年9月9日～23日 東京/常呂実習施設	東大5名(文2、前期2、法1) 海外5名(英3、豪1、米1)
2017年度冬期	2018年2月10日～23日 ロンドン/ノーフォーク州	東大5名(文3、前期1、理1) 海外5名(英5)

E 「新・日本学」構想に向けた海外研究者による特別講義シリーズ

実施期間	平成29年1月10日～平成29年3月1日
実施状況	<p>【特別講義シリーズI】 テーマ：Slaves, Outcasts, and Torture: New Perspectives on Japanese Oral Performance and Media 招聘教授：Haruo Shirane (米国コロンビア大学) 開講日：平成29年1月10日・1月12日</p> <p>【特別講義シリーズII】 テーマ：Japanese Culture: The Perspective of Symbolic Forms (シンボリ形式から見た日本文化) 招聘教授：ラジ・シュタイネック教授 (チューリッヒ大学) 開講日時：平成29年2月14日～2月16日 3限～4限</p> <p>【特別講義シリーズIII】 テーマ：Japanese Literature in the World (世界の中の日本文学) 招聘教授：David Damrosch (ハーバード大学) 開講日時：平成29年2月27日～3月1日 14:00～16:00</p>
実施期間	平成30年1月15日～平成30年3月30日
実施状況	<p>【特別講義シリーズI】 テーマ：Buddhism, contemporaneity, Japanese Art and Literature (仏教、同時代性：日本の美術と文学) 招聘教授：Ryuichi Abe (The Department of the East Asian Language and Civilization, Harvard University) 開講日時：平成30年1月15日～1月17日 2限～3限</p> <p>【特別講義シリーズII】 テーマ：Displaying Manga and Japan at the British Museum 招聘教授：Nicole Coolidge Rousmaniere 教授 (大英博物館) 開講日時：平成30年2月27日～28日 2限～4限</p> <p>【特別講義シリーズIII】 テーマ：韓国から日本を眺める—東アジア的視点からみた韓国と日本 招聘教授：河 宇鳳 (韓国・全北大学校名誉教授) 開講日時：平成30年3月28日～30日 14:00～16:00</p>

実施結果	<p>本事業は、年間 3 名の著名な研究者を海外から招聘し、東京大学大学院人文社会系研究科の大学院生に向けて英語による授業を提供するものである。東京大学にいながらにして、欧米における当該分野の代表的研究者から直接指導を受ける経験は、本学の学生にとって極めて刺激的で国外への日本学発信に向けての強い動機付けを与えることができた。</p> <p>本事業を実施した効果は、双方向形式の英語による授業は、学生たちの知的関心を刺激し、出席者アンケートから新たな日本学に向けた有意義な経験であったとの声に認められた。本事業を継続、発展させることで、次世代の「新・日本学」構想を展開する際の国際的なハブ構築への一助となった。</p>
------	---

F オークランド大学でのアカデミック英語短期集中プログラム

実施期間	<p>平成 28 年度：平成 29 年 3 月 6 日～3 月 17 日 平成 29 年度：平成 30 年 3 月 5 日～3 月 16 日</p>
実施状況	<p>本事業は、人文社会学系研究分野の成果を積極的に国外発信するために、(1)高度なアカデミック英語の習得と、(2)若手教員のファカルティ・ディベロップメント (FD) の一環として英語による授業提供のためのトレーニングを受けることにある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加プログラム：オークランド大学付属英語アカデミー (English Learning Academy 【略称：ELA】) での語学研修プログラム ・参加者数： <ul style="list-style-type: none"> 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程所属院生 11 名 東京大学大学院人文社会系研究科准教授 1 名 ・募集方法 <ul style="list-style-type: none"> 東京大学文学部の website (在学生ポータル) で告知、募集開始。参加申込者に対し、書類選考の後、申込者に通知。 ・プログラム概要： <ul style="list-style-type: none"> ELA の指導のもと、授業では全体を通して、アカデミックな場面におけるリスニング、スピーキング、ライティングに焦点が置かれた。英語を実際に使って交流、口頭発表、議論を行う機会も積極的に組み込まれた。二週目以降は、受講者たちの問題関心に近いオークランド大学の授業を聴講する機会があり、今後、研究者として海外で活躍するための知識を習得した。 <p>本事業を実施しての効果として 2 点ある。まず、若手教員にとって、大学院生の引率など、実質的な FD の経験を積むことができ、海外において研究のみならず教育の現場を体感することができた。第 2 に、大学院生たちにとっては、英語によるプレゼンや議論を重ねることで、今後、海外での研究活動を視野にいたしたキャリアプランを立てる強い動機付けとなった。本事業が、世界的視野をもった「知のプロフェッショナル」を育成するための基礎力養成としての高い効果を認めることができた。</p>

(2) 国際交流協定

A 学術・学生関係

2018年5月1日現在

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
インド	1	デリー大学	総長、人文科学研究科 委員会委員長	副総長、事務局長	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・学科を指定)
			1980/3/25 1983/3/25 1986/4/22 1992/7/8 2016/5/17	1980/5/1 1983/5/2 1986/5/1 1992/7/20 2016/3/31		
中国	2	北京大学	総長	校長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1985/3/25 2003/12/17 2009/7/21 2014/3/20	1985/3/25 2003/11/7 2009/7/21 2014/6/11		
韓国	3	ソウル大学校	総長	総長	相互に関心を持つ分野	1. 教員 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
			1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29 2012/7/25 2016/7/22	1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29 2012/5/5 2016/7/22		
	4	高麗大学校	総長	総長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2005/10/28 2014/3/27	2005/10/28 2014/4/18		
イラン	5	テヘラン大学	総長	総長	(派遣)イスラム学、ペルシア語・ペルシア文学、イラン史学等 (受入)日本語・日本文学、日本史学等	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 情報及び学術資料の交換 4. 共同研究、合同シンポジウム及び講義などの活動
			1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25 2009/9/19 2013/2/20 2017/12/5	1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12 2009/9/19 2013/4/28 2017/12/23		
エジプト	6	カイロ大学	総長	学長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1998/7/3 2005/6/27 2017/2/2	1998/7/3 2005/7/11 2017/4/4		
北米	7	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	総長	学長、理事会	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2001/7/3 2006/9/13 2012/1/10	2001/7/3 2006/10/4 2012/3/23		
イタリア	8	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	総長	総長	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議、セミナー、研究課題の講習会の開催
			1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22 2014/12/17	1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7 2015/2/5		
	9	パドヴァ大学	総長	学長	相互に関心を持つ分野	1. 研究者 2. 学生、大学院生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 大学教育に付随する業務分野での活動 5. 学術会議や研究会への参加
			1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24	1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17		
			総長	学長		
1998/7/24 2003/11/26	1998/7/30 2003/10/6					
11	ピサ高等師範学校	総長	校長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		2002/5/30 2007/4/4 2016/7/6	2002/6/10 2007/4/19 2016/9/21			
スイス	12	ジュネーブ大学	総長	学長	両大学が関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1997/7/2 2002/7/2 2007/6/6 2009/2/24 2012/11/5	1997/7/2 2002/7/22 2007/6/26 2009/3/20 2012/8/6		
ドイツ	13	ホッフム・ルール大学	総長	総長	日本学、シナ学、ドイツ文学・語学・哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
			1969/5/23	1969/7/14		
フランス	14	エコール・ノルマル・スーペリエール	総長、人文科学研究科長	校長、国際交流部長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1993/2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8、2/13 2015/2/9	1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4 2015/3/28		
オランダ	15	ワルシャワ大学	総長	総長	(派遣)スラヴ学 (受入)日本学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換
			1978/4/1	1978/5/10		
ロシア	16	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	総長、副学長	総長、副学長	学術研究上共通の関心を持つ分野	1. 教員、研究者、大学院生、学部学生 2. 共同研究 3. 講義及びシンポジウムの開催 4. 情報及び学術刊行物の交換
			1998/4/7 2003/5/13 2015/7/28	1998/4/7 2003/6/24 2015/8/17		

B 部局間協定

2018年5月1日現在

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	1	北京大学歴史学系	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史学系主任	相互に関心のある分野	学生の交流
			2006/7/21、8/3 2008/9/8、9/16 2011/7/1、7/5 2016/9/26,9/20	2006/8/21 2008/9/19 2011/7/20 2016/10/10		
	2	山東大学文史哲研究院・ 韓国研究中心	人文社会系研究科長・文芸部長	研究院長・ 研究中心主任	双方に関心を持つ教育研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
2003/7/17 2008/11/25 2014/1/31			2003/8/10、9/9 2008/11/25 2014/3/14			
3	香港中文大学文学院	人文社会系研究科長	文科大学長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学部学生、大学院生	
		2011/2/1 2016/1/23	2011/1/27 2016/2/2			
台湾	4	中央研究院人文社会科学 研究センター地理情報科 学研究センター	人文社会系研究科長	研究中心主任、執行長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 研究者 2. 共同研究の実施 3. 講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2013/10/11	2013/10/22、10/21		
韓国	5	ソウル大学校人文大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2005/7/11 2012/6/4 2016/6/15	2005/8/10 2012/5/5 2016/6/23		
	6	高麗大学校文科大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2005/10/31	2005/10/28		
7	釜山大学校人文大学	人文社会系研究科長	人文大学長	相互の必要と認める分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 学術情報及び資料の交換	
		2005/1/13 2010/6/5 2011/9/22	2005/2/17 2010/2/17 2011/10/10			
8	成均館大学校儒学・東洋 学部	人文社会系研究科長・文芸部長	学部長	それぞれに関心を持つ学術研究領域	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		2006/11/2 2012/1/17	2006/11/11 2012/1/27			
モロッコ	9	アブデルマレク・エッサデー大学 文学部	総長、人文社会系研究科長	総長、文芸部長	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学生 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議及びシンポジウムの開催
			1998/3/24	1998/3/24		
			人文社会系研究科長	文芸部長		
イギリス	10	マンチェスター大学 人文学部	人文社会系研究科長	人文学部長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生
			2009/8/24	2009/9/7		
11	セインズベリー 日本藝術研究所	人文社会系研究科長・文芸部長	統括役所長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生	
		2015/1/6	2015/1/6			
イタリア	12	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	人文社会系研究科長	東洋研究学部長	(派遣) イタリア語、イタリア文学 (受入) 日本語、日本文学 その他、双方の合意によって決められた分 野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 研究会、セミナー、研究課題の講習会 4. 学術情報及び出版物の交換
			2009/10/23 2014/12/25	2009/11/5 2015/11/27		
セルビア	13	ベオグラード大学 文学部、哲学部	総合文化研究科長・教養学部長、 人文社会系研究科長・文芸部長	文芸部長、哲学部長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の 活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2007/11/16、11/22 2013/6/24、6/27	2008/2/6、2/7 2013/7/17		
ドイツ	14	ベルリン自由大学 歴史文化学部、大学院東ア ジア研究科、シュレーゲル 大学院文学研究科	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史文化学部長、文学研究 科長、東アジア研究科長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2013/2/13、2/19	2013/2/27		
15	エバーハルト・カール大学 チュービンゲン	人文社会系研究科長	医学部長・文芸部長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換	
		2017/3/29	2017/5/3 2017/5/5			
フランス	16	エコール・ノルマル・スーペリエール/ 文学・人文科学リヨン校	人文社会系研究科長	校長	相互に関心のある分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究の実施 4. 学術情報及び資料の交換
			1999/10/19 2002/9/25 2013/2/21 2017/11/24	1999/10/13 2002/10/15 2013/3/20 2018/1/12		
17	フランス極東学院	人文社会系研究科長	学院長	それぞれが学術研究及び教育上関心を持 つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換	
		2001/3/3 2006/3/13 2012/1/7	2001/3/13 2006/3/13 2012/2/9			

(3) 国際研究協力

A 海外渡航

平成28(2016)年度		平成29(2017)年度	
全体 261 件 (外国出張 219 件 海外研修 42 件)		全体 245 件 (外国出張 203 件 海外研修 42 件)	
教授	146 件	教授	132 件
特任教授	0 件	特任教授	0 件
准教授	62 件	准教授	62 件
特任准教授	13 件	特任准教授	10 件
助教	25 件	助教	27 件
特任助教	6 件	特任助教	7 件
講師	5 件	講師	4 件
外国人教師	4 件	外国人教師	3 件

B 外国人客員教員・研究員（客員）

<外国人教員>

フランス語フランス文学専修課程	シモン-オイカワ、マリアンヌ (2006.10.16～2018.10.15)
南欧語南欧文学専修課程	アマート、ロレンツォ (2011. 4.18～2018. 3.31)
哲学専修課程	ディーツ、リチャード (2011.10. 1～2016. 9.30)
ドイツ語ドイツ文学専修課程	ケプラー タサキ、シュテファン (2012.10. 1～2018. 9.30)
附属次世代人文学開発センター	ミュラー、アルバート チャールズ (2013.11. 1～)

<特任教員（旧外国人研究員（客員Ⅲ種））>

文化資源学専攻	バウシュ、イローナ (2014.10.1～2017. 9.30)
韓国朝鮮文化研究専攻	李 亨眞 (2015. 4. 1～2018. 3.31)
文化資源学専攻	ホームバーグ、ライアン (2017.10.1～2019. 9.30)

C 外国人教師

〔（ ）内は国籍〕

専修課程	平成24 (2012) 年度	平成25 (2013) 年度	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度
英語英米文学	1名 (英)					

若手研究(B)	26870160	片岡 大右	600,000	180,000	ヨーロッパ理念とその政治的・社会的反響——ロマン主義、欧州統合、レイシズム
若手研究(B)	15K16620	河崎 豊	500,000	150,000	『タトゥー・ヴァールタースト』シンドラーを注ぎ中心とするジャイナ教の戒律解釈史研究
若手研究(B)	15K16637	橋爪 恵子	400,000	120,000	触覚をめぐる美学史に向けて——G・バシュアールの芸術論を中心に
若手研究(B)	15K16659	柳沢 史明	500,000	150,000	アフリカ美術におけるキリスト教的図像：フランス人宣教師から見た彫刻表現
若手研究(B)	15K16696	ウィリアムズ ローレンス	1,300,000	390,000	Chained Islands: Cross-Cultural Interactions Between Britain and Japan, 1660 - 1853
若手研究(B)	15K16710	安達 大輔	600,000	180,000	19世紀ロシア文学における言語と身振りの関係についての総合的研究
若手研究(B)	15K16667	國木田 大	600,000	180,000	本州島東北部における弥生・縄文時代以降の食性復元
若手研究(B)	16K16658	嶋志田 聡子	800,000	240,000	イスラエルのユダヤ人の言語的多様性：ユダヤに内包されたイスラームの研究
若手研究(B)	16K16693	青野 道彦	800,000	240,000	『サマンタバーサーティカー』研究の基盤形成——諸版対照ツールと註釈対象語索引の提示
若手研究(B)	16K16724	野村 悠里	700,000	210,000	フランス革命後におけるルリユールの展開：製本術と装幀デザインの変容に関する研究
若手研究(B)	16K16800	吉田 俊一郎	1,000,000	300,000	帝政期ローマの修辞学教育の文学への影響の研究
若手研究(B)	16K16819	早田 清冷	600,000	180,000	初期満洲語の格体系の研究
若手研究(B)	16K16922	大塚 修	800,000	240,000	13-15世紀ベルシア語文化圏における文芸活動の隆盛と宮廷文化
若手研究(B)	16K17292	橋本 剛明	400,000	120,000	道徳的ジレンマ状況における「行動」と「判断」の乖離に関する検討
若手研究(B)	16K17368	中島 亮一	1,000,000	300,000	視野内で起こる事象に対する操作主体感が生み出す視覚的認知特性の解明
若手研究(B)	17K13363	亀田 真澄	1,900,000	570,000	「幸せな生活」のプロバガンダー—1930年代アメリカとソ連のライフスタイル宣伝
若手研究(B)	17K13557	岸部 彰	1,000,000	300,000	1950年代西ドイツにおけるキリスト教民主同盟の社会政策—その理念と社会像
若手研究(B)	17K13563	夏木 大吾	1,100,000	330,000	日本列島北部における新石器型狩猟採集社会の形成過程
若手研究(B)	17K13962	李 琦	1,500,000	450,000	Dynamic attentional control of internal representations in visual working memory

【一部基金】

研究種目	課題番号	研究代表者	平成29年度 直接経費	平成29年度 間接経費	研究課題名
基金研究(B)	26284002	一ノ瀬 正樹	1,700,000	510,000	被害・リスク・合理性をめぐる記述性／規範性の交差を通じた災害復興のための哲学構築
基金研究(B)	26284011	鶴岡 賢雄	1,300,000	390,000	ポスト・セキュラー状況における宗教研究
基金研究(B)	26284030	小林 真理	1,300,000	390,000	地域文化政策領域における「新しい公共」の担い手と環境整備
基金研究(B)	26284056	大西 克也	1,900,000	570,000	概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開—構文と文法範疇の相関的変遷の解明
基金研究(B)	26284102	三枝 暁子	1,000,000	300,000	郷・村のデータベース作成にみる日本中世の地域社会
基金研究(B)	26284113	藤田 俊輔	2,100,000	630,000	コスモポリタニズムと秩序形成——ブリテン世界における近代的イシュー
基金研究(B)	26285107	松本 三和夫	500,000	150,000	構造化における不作為が緊急時に発現するメカニズムの科学社会学的研究
基金研究(B)	26285164	横澤 一彦	1,900,000	570,000	統合的認知としての共感覚と感覚間協応に関する認知心理学的研究
基金研究(B)	26284002	一ノ瀬 正樹	1,000,000	300,000	被害・リスク・合理性をめぐる記述性／規範性の交差を通じた災害復興のための哲学構築
基金研究(B)	26284030	小林 真理	700,000	210,000	ポスト・セキュラー状況における宗教研究
基金研究(B)	26284030	小林 真理	800,000	240,000	地域文化政策領域における「新しい公共」の担い手と環境整備
基金研究(B)	26284056	大西 克也	900,000	270,000	概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開—構文と文法範疇の相関的変遷の解明
基金研究(B)	26284102	三枝 暁子	800,000	240,000	郷・村のデータベース作成にみる日本中世の地域社会
基金研究(B)	26284113	藤田 俊輔	1,300,000	390,000	コスモポリタニズムと秩序形成——ブリテン世界における近代的イシュー
基金研究(B)	26285107	松本 三和夫	1,200,000	360,000	構造化における不作為が緊急時に発現するメカニズムの科学社会学的研究
基金研究(B)	26285164	横澤 一彦	600,000	180,000	統合的認知としての共感覚と感覚間協応に関する認知心理学的研究

(2) 奨学寄附金

平成28(2016)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
沼野 充義	公益財団法人 サントリー文化財団	900,000	「『幸せな未来』のデザイン—1930年代のアメリカとソ連におけるプロバガンダ」に対する助成についての機関経理のため
亀田 達也	安心ネットづくり促進協議会	496,000	「SNSにおける透明性の錯覚に関する心理学的研究」に対する助成についての機関経理のため
六反田 豊	公益財団法人 住友財団	800,000	「東京大学コア・コリキウム事業」に対する助成についての機関経理のため
下田 正弘	一般財団法人 人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた人文社会学研究のため
養輪 顕量	鳥飼 きよの	5,000,000	布施学術基金に対する寄附
養輪 顕量	清川 容子	2,000,000	布施学術基金に対する寄附
大貫 静夫	公益財団法人 三菱財団	3,500,000	「北アジアの新石器化に関する研究」に対する助成についての機関経理のため
守川 知子	公益財団法人 JFE21世紀財団	1,500,000	「近世西アジア社会における『異教徒』と宗教的社会変容」に対する研究助成のため
養輪 顕量	公益財団法人 克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
向井 留美子	李 貞善	50,000	国際交流室活動のため
高岸 輝	公益財団法人 鹿島美術財団	2,000,000	日本美術史に関する国際大学院生会議の経費(美術普及振興(会議出席)助成金)の機関経理のため

平成29(2017)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
六反田 豊	公益財団法人 住友財団	800,000	「東京大学コア・コリキウム事業」に対する助成のため
長島 弘明	丸善雄松堂株式会社	29,160	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究のため
唐沢 かおり	安心ネットづくり促進協議会	468,000	安心ネットづくり促進協議会2016年度研究支援(助成)「非当事者による制裁行動の生起メカニズムの検討」についての機関経理のため
村本 由紀子	公益財団法人 科学技術融合振興財団	34,184	公益財団法人 科学技術融合振興財団 平成28年度補助金「集団間対立のメカニズム—四人のジレンマを用いた検討—」の機関経理のため
高岸 輝	辻 惟雄	5,000,000	日本美術史に関する国際交流のため
秋山 聡	公益財団法人 三島海雲記念財団	1,000,000	公益財団法人三島海雲記念財団 平成29年度学術研究奨励金(個人研究奨励金)「ティムール・サファヴィー朝期イランの工芸とベルシア語文化」の機関経理のため
市川 裕	公益財団法人 三島海雲記念財団	500,000	公益財団法人三島海雲記念財団 平成29年度学術研究奨励金(共同研究奨励金)「イスラエル国テル・レベシュ新出土初期シナゴグの考古学的・宗教史学的研究」(代表 立教大学長谷川修一准教授)の機関経理のため
長井 伸仁	公益財団法人 三菱財団	800,000	公益財団法人三菱財団 平成29年度人文科学研究助成金「身体を用いる労働と宗教—第二次世界大戦後のフランスにおけるカトリシズムの事例」の機関経理のため
佐川 英治	財団法人 東アジア文化研究交流基金	250,000	東アジア文化研究交流基金 2017年度 若手研究者助成事業「魏晉南北朝時代の『正統』観とその波及」の機関経理のため
下田 正弘	一般財団法人 人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた次世代人文社会学研究のため
養輪 顕量	公益財団法人 克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
高木 和子	丸善雄松堂株式会社	16,200	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究のため

5. 教育・研究支援組織

(1) 図書室

■蔵書数（平成30年3月末現在）

図書	1,138,834 冊（うち洋書	585,690 冊）
年間受入図書冊数	10,410 冊（うち洋書	5,305 冊）（平成29年度）
所蔵雑誌種数	14,025 種（うち洋雑誌	4,595 種）
年間受入雑誌種数	1,224 種（うち洋雑誌	619 種）（平成29年度）

■図書資料の蔵置

現在、文学部の蔵書は図書委員会の管理・運営の下で、以下の書庫や研究室に分散配架しているが、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。この問題を解決するために、図書委員会では新図書館（アカデミック・プラザ）構想に対応して、図書資料の再配置計画を検討中である。

1) 法文2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料を配架。

2) 文学部3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・美学芸術学・日本史学・西洋史学・東洋史学・言語学・国語学・国文学・心理学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消された。また、保存環境についても、定期清掃の実施や温湿度管理の徹底、防虫剤の定期交換等により、大幅に改善されつつある。

4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・アネックス（浅野地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

5) 法文1号館書庫

各研究室の稀用図書、考古学関係の発掘調査書等を配架。

6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学・スラヴ語スラヴ文学の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

■サービス体制

1) 文学部3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）、土曜の午前10時～午後6時（短縮期間中は閉室）。OPAC用パソコン4台、デジタル資料閲覧用パソコン1台、コピー機2台を設置。

2) 法文2号館図書室

主として、法文2号館図書室に配架された雑誌・博士論文・マイクロ資料の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時30分（短縮期間中は午前9時～午後5時）。OPAC用パソコン3台、コピー機2台、マイクロリーダープリンタ2台を設置。個人閲覧席11席を整備したキャレルコーナーがある。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

■最近の利用状況

	平成28年度	平成29年度
・入館者数	29,509 人	28,617 人
・貸出冊数	19,426 冊	19,943 冊
・文献複写	138,944 枚	145,480 枚
・参考業務	4,865 件	4,742 件
・相互協力	3,203 件	2,776 件

(2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置された（利用開始は1970年）。2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する中国前近代資料（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）、いわゆる漢籍資料を中心として、20世紀前半頃までの中国関係資料も含めると総数10万冊を超える資料を所蔵している。また、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮漢籍）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションもあり、蔵書の中には孤本・稀覯本など貴重な資料も多く含まれている。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」のほか、参考図書等を備えた「閲覧室」があり、中国学を専攻する学生・教職員に研究・教育・学習の場として、文学部のみならず他学部や他部局、学外の学生・研究者にも利用されている。とりわけ近年、ごく一部の資料を除くほぼ全ての所蔵図書がOPACに登録されたため、学内他部局や学外からの利用者が増加している。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員が担当している。

2016～17年度も、関連研究室の購入図書や科研費購入図書を中心として年1,000冊程度のペースで蔵書を受け入れているほか、既存の蔵書についても文学部の予算補助を受け、損傷の激しい図書の補修を継続しており、貴重書である明清版の修繕を進めることができた。また2015年度から韓国高麗大学との協定のもと、貴重な朝鮮本コレクションである小倉文庫のデジタル化事業が進められているが、2016年度も59点の貴重書の撮影を行い、前年度撮影分とあわせて約180点の資料について、高麗大学のホームページ上に画像データが公開された。小倉文庫は国内のみならず、海外の研究者からの関心が高い資料であり、今後ますます多くの研究者によって研究が進められることが期待される。また文学部でも同データを公開する準備が現在進められているほか、2017年度には次年度以降のさらなる撮影・デジタル化のための予備調査も行われた。

これほどの量と質を備えた漢籍専門の図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設である。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として漢籍コーナーの整備・充実に努めていかなければならない。近年は出版数の増加や電子資料の普及など「漢籍」をとりまく状況も変化しており、漢籍コーナーも外部利用者の増加や、デジタルデータの扱いなどに対する対応が求められている。そのため、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していくと、二つの責務をバランスよく果たしていくことが今後の課題となっている。

(3) 国際交流室

2017年度、人文社会系研究科における外国人留学生数は166名であり、前掲の「国又は地域別外国人留学生数」に示したように、過去5年間、総数は160名前後で推移している。同様に、国・地域別においても顕著な増減は見られない。

2017年度における国・地域別では、中国が82名と最も多く、次いで韓国52名、台湾8名となっている。これにより、中国が全体の約49%、韓国が約31%を占めていることが分かる。更に、アジア諸国が148名に上っていることから、本研究科の外国人留学生の9割近くをアジア出身者が占めていることが明らかとなった。

一方、外国人研究員は、2017年度は40名を受け入れている。前掲の「外国人研究員（国籍別人数）」によれば、国・地域別では、中国が10名と最多となっている。

国際交流室は、これら200名以上に上る外国人留学生及び外国人研究員の受入、支援を行っており、日本語教育担当教授1名、同非常勤講師3名、留学生教育担当講師1名、事務補佐員2名により構成されている。

【国際交流室日本語教室の活動】

2016年に国際交流室が開室42周年、日本語教室が開室25周年となったことを記念して、12月10日に座談会を行った。留学生、日本人学生、教職員が一堂に会して、現状における留学生の課題を洗い出したところ、大きなものとして1) 論文作成のための日本語指導の充実、2) 日本人との対人関係構築力の養成、3) 専門教育と日本語教育をつなぐ科目の設置の必要性が挙げられた。そこで、日本語教室では、1) については、前年度に引き続き留学生のニーズに合わせて、日本語教室での科目や大学院科目の内容の見直しを行い、2) については、大学総合教育研究センターの協力を得て、東京大学ファカルティ・ディベロップメント・プログラム修士を講師として迎え、2016年度から毎年、対人関係構築の能力養成のための講座を行うようになった。3) については、2017年度より専門科目受講の前提として必要となる日本史の基礎が学べる特別講座を開始した。その実施にあたっては、日本史学研究室の協力を得て、指導力のある博士課程の院生を講師として起用している。2) 3) に共通する特徴として、留学生教育だけでなく日本人学生の教育にもなるという双方向性を持っていることが挙げられる。

また、座談会では、チューター側の支援に対する意識が不足していること、指導する教員間での情報共有が行われていないことなどの問題も指摘された。そこで2017年2月22日には「チューター懇談会」を、同年3月8日には「留学生受け入れ教員懇談会」を実施し、チューターに対しては留学生への支援上の留意点の提示や有益な情報提供を行うとともに、指導教員には、国際交流室や日本語教室の方針および教育・支援の実態を紹介し、参加者間の意見交換も行った。これらの懇談会から出された意見は、今後の留学生教育・支援の充実化に反映させていく予定である。

教授 **向井 留実子** MUKAI, Rumiko

29 次世代人文学開発センター《先端構想部門》 参照

講師 **三宅 真由美** MIYAKE, Mayumi

1. 略歴

- 1995年3月 南山大学法学部法律学科卒業
- 1997年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻博士前期課程修了
- 2000年9月 朝日大学教育職員（～2001年3月）
- 2001年4月 朝日大学留学生別科専任講師（～2010年3月）
- 2010年4月 朝日大学留学生別科日本語研修課程専任講師（～2012年9月）
- 2012年10月 信州大学経済学部講師（～2016年3月）
- 2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科講師（～現在に至る）

2. 主な教育活動

(1) 留学生支援

本研究科・本学部への外国人留学生の受け入れ、本研究科・本学部在籍する外国人留学生に対する修学面及び生活面での支援等。

(2) 外国人研究員支援

大学院外国人研究員の受け入れ及び支援等。

◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

(4) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室と呼ぶ）は、本研究科・本学部をとりまく以下の状況を踏まえ、2009年度に設置された。

すなわち、大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている。

その要請に応えるために、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上で高度のセキュリティ対策を構築していくように努力している。

なお、情報管理室の設置に伴い、視聴覚教育センターと情報メディア室はその分室となった。

構成員

教育研究情報管理室

- 室長（2016年度） 林徹（言語学研究室教授）
- 室長（2017年度） 秋山聡（美術史学研究室教授）
- 講師 石川洋
- 事務補佐員 松原道子

A 視聴覚教育センター

- 特任専門職員 菅家健一
- 特任専門職員 木村京子
- 事務補佐員 小国浩一

B 情報メディア室

特任助教 (2016 年度)・講師 (2017 年度) 西川賀樹
助教 (2017 年度) 安藤翔伍
事務補佐員 堂前香織

講師 **石川 洋** ISHIKAWA, Hiroshi

1. 略歴

1986 年 3 月 東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
1986 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学
1989 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了
1989 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学
1994 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学
1994 年 4 月 東京大学文学部助手
1995 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科助手 (漢籍コーナー担当)
2010 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科講師 (教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当)

2. 主な研究活動

(1) 主要業績

事典 (項目執筆) 中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』、丸善出版、2017.4
「孫文——近代中国・中国革命の顔」(66-67 頁)、「五四運動——革命の導火線、愛国から革命へ」(68-69 頁)、
「蒋介石——対立の指導者」(70-71 頁) を執筆
翻訳協力 老舍原作・梅阡脚本・大山潔訳注『戯曲 駱駝祥子』、東方書店、2015.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、関東学院大学法学部、「外国史 1・2」、2016.4~2018.3

(2) 学会

国内、中国社会文化学会、一般会員、2016.4~2018.3

国内、東方学会、一般会員、2016.4~2018.3

国内、史学会、一般会員、2016.4~2018.3

A 視聴覚教育センター

総合図書館の 5 階にある文学部視聴覚教育センター (以下、「センター」) は、1964 年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置・運営が文学部に委託されて発足したものであり、語学教材、言語学資料、映画・古典芸能等の音声・映像資料を作成・収集して全学の利用に供するとともに、本研究科・学部の視聴覚設備の整備、視聴覚機器や PC を必要とする教育・研究のサポート、本研究科で行われるさまざまな講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化を行っている。

2009 年 4 月よりセンターは、本研究科・学部の教育研究情報管理室の分室として位置づけられ、これにより教育研究情報管理室・情報メディア室・大学院係・教務係等とより緊密な連携をはかり、本研究科・学部全体の教育研究体制を見渡しながら、視聴覚面で研究・教育に貢献していく環境が整えられた。2010 年 10 月には文学部教授会において、1984 年制定の「東京大学文学部附属視聴覚教育センター運営委員会規程」及びセンター利用規定・利用細則が全面的に見直され、新たに「東京大学大学院人文社会系研究科・文学部視聴覚教育センター規則」「同利用規程」「同利用細則」が定められた。センター運営には教員で構成される視聴覚教育センター運営委員会があたり、業務はセンター職員 3 名と教育研究管理室講師 1 名が担当している。

1) 視聴覚教育センターの移転

総合図書館が進める「新図書館計画」によって、センターはこれまでの総合図書館 5 階から他の階に移転することが決定している。2017 年度に 5 階部分の改修工事が開始されることから、2016 年 11 月をもってセンターは一時的閉鎖となり、2017 年 1 月に事務室のみ法文 2 号館 2328 室に仮移転し、本研究科・学部向け業務を中心に業務を継続している。なお、センターの正式な移転先については現在総合図書館と協議中であり、いまだ確定していない。

2) 視聴覚資料の収集と利用

センターは開設以来今日まで 10,000 点以上の音声・映像資料を収集、蓄積し、語学教材を含むこれらの資料を、センターの自習室において全学の学生・教職員の利用に供してきた。総合図書館において音声・映像資料の視聴設備があるのは視聴覚教育センターだけであり、ソフト・ハードの両面で総合図書館における AV ライブラリー機能を担ってきた。ただし、仮移転中は視聴設備や資料配架場所を臨時に設けることが困難であることから、所蔵資料の利用を停止している。

3) 文学部視聴覚設備・機器に関する業務

センターの管理・運営とならび、センターの重要な業務となっているのが本研究科・学部の教室視聴覚設備の整備・管理、視聴覚設備・機器に関わるサポート（教員への技術指導、機器の故障への対応など）である。

設備関係では、2017 年 8 月に竣工した国際学術総合研究棟 1 階文学部 3 番大教室の視聴覚設備の基本プランを作成した。同教室は 2017 年 12 月から利用が開始され、授業の他、シンポジウム、講演会、最終講義などで利用されている。法文 1 号館、2 号館の講義室・演習室については、2017 年度までの設備整備により全 29 室に、スクリーン、プロジェクター、大型液晶ディスプレイなどの映像映写機器とスピーカーなどの音響機器が設置され、PC などの映像、音声提示がすべて教室常設設備で行えるようになった。ただ、PC や DVD・BD などの映像出力が全面的にデジタル化されるのに合わせて教室設備も HDMI に対応したデジタル機器に切り替えていく必要があり、またすでに更新時期を迎えている機器も多数ある。授業・学会等での PC・AV 機器の使用が当たり前のことになり、加えて PC・AV 機器の変化がめまぐるしいこともあり、教員・学生からは視聴覚設備について様々な要望が出ている。引き続き、計画的、効率的に視聴覚設備の更新・整備を進めていく必要がある。また、設備と利用の増加に伴い、設備維持のためのコスト（費用・労力）も年々増大しており、その確保も課題となっている。

視聴覚設備・機器の利用サポートについては、仮移転後も継続して行っている。センター事務室が法文 2 号館に仮移転したことで、教室、研究室、受付などからの問合せや呼出への迅速な対応が可能になり、また研究室、教員からの相談や依頼、問合せも増えてきている（特に電話やメールではなく直接来訪しての相談や依頼が目立って増加している）。仮移転によって業務に大きな支障が生じていることは間違いないが、こと本研究科・学部向け業務に関しては利便性が増したというプラス面もあった。

4) 催事等の撮影

センターでは、本研究科・学部で行われるさまざまな講演やシンポジウム、退職教授の最終講義等の録画を行っており、2016～2017 年度も 40 件あまりの催事を録画した。このうち一部のビデオは東大 TV で公開されているが、公開や閲覧提供には著作権や肖像権などの問題があり、貴重な資料であるにもかかわらず十分に活用できていないのが現状である。またこれまで蓄積してきた映像資料については、撮影データを含むリスト作成などの整理作業を進めているが、メディア変換（DVD、BD や HD など現行のメディアへのダビング）が必要な資料が大量にあるなど、アーカイヴ化に向けての課題は少なくない。

5) センターの今後について

考古学、美術史、言語学、各種語学など映像・音声資料を扱い、視聴覚機器を必要とする学問・研究分野を抱える本研究科・学部は早くから視聴覚資料の収集や視聴覚設備の整備に力を入れてきたが、近年は、すべての学問領域において視聴覚資料・機材の使用が当たり前のことになり、視聴覚に関わる業務は本研究科・学部の研究・教育活動全般に関わる必要不可欠のものとなってきている。センターは、総合図書館内にあり全学的な業務・サービスも担っているが、一方で、本研究科・学部の施設であり本研究科・学部の研究・教育支援も主たる業務としている。今後、移転を巡る図書館との協議によっては図書館におけるセンターの位置づけや業務が大きく変わる可能性があるが、その場合は、本研究科・学部における位置づけを含めたセンターのあり方や業務全般を見直すことが必要になってくるであろう。

B 情報メディア室

MAIL : l_cnc@lu-tokyo.ac.jp

WEB : <http://www.lu-tokyo.ac.jp/MediaCenter/>

情報メディア室は、文学部の計算機システムおよび LAN の構築・運用・管理を行うことを目的として、1996 年に設立された。現在、情報メディア室では、次の 2 つの業務を行っている。

1. 文学部内の情報システムに関する構築・運用・管理
2. 多分野交流演習事務局

1. 情報システムの構築・運用・管理

情報メディア室は、文学部の教育・研究用計算機システム及びLANの構築・運用・管理を行っている。また、文学部 CERT として活動しており、各種セキュリティ対策情報の学部内への周知や情報セキュリティインシデントへの対応を行っている。その他、事務部や広報委員会と連携した情報システムによる広報活動の支援、文学部の各教員やプロジェクトの教育研究活動の支援等も行っている。

教育・研究用計算機システムの運用

教育・研究用計算機システムとして様々なサーバを管理・運用し、文学部・大学院人文社会系研究科構成員に対して、電子メール、ホームページ（以下、HP）をはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。

1) 文学部 Web サーバの運用

文学部公式 HP の Web サーバの運用を行っている。文学部公式 HP では、事務部や広報委員会、各研究室等からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。また、研究室・個人 HP を公開するための Web サーバについても運用しており、ホスティングサービスを提供している。

2) 文学部メールサーバの運用

メールサーバの運用を行い、文学部アドレスのメールやメーリングリストを提供している。また、標的型攻撃メールが近年増加していることもあり、セキュリティ対策として迷惑メールフィルタを導入・運用している。この迷惑メールフィルタによってメールのスキャンや発信元の確認を行い、ユーザが安全にメールサービスを利用できるようにマルウェア感染やフィッシングへの対策を行っている。

3) 文学部ドメインの管理

DNS サーバを運用し、文学部ドメイン `lu-tokyo.ac.jp` の管理・割り当てを行っている。また、文学部 LAN におけるインターネットアクセスのために、DNS キャッシュサーバを運用している。

4) 文学部内データベースの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

5) グループウェアの運用

事務部からの情報発信や各研究室・部署で情報共有を行うためにグループウェアの運用管理を行っている。

6) 認証用サーバの運用

無線 LAN や各種システムの認証を行うために、アカウント管理を行う認証用サーバを運用している。

LAN の運用

文学部の構成員が使用する主要な建物である、法文 1 号館、法文 2 号館、文学部 3 号館、弥生総合研究棟、文学部アネックス、赤門総合研究棟、国際学術総合研究棟における文学部 LAN の基幹部分（研究室や教員居室の外部）の管理運用を行っている。

1) ネットワークの管理・運用

物理的なネットワーク配線、通信を中継するルータやスイッチ等の機器を運用管理し、研究室からキャンパス LAN である UTNET までの通信経路における良好な通信サービス提供のための活動を行っている。サーバ等と同様に老朽化による故障を防ぐために定期的に機器の更新を行っている。また、機器の動作に異常がないか監視するシステムを導入しており、故障が発生した場合は常備している予備機への交換作業を行うことで、長時間にわたってネットワークが不通となることがないように対策を行っている。

有線 LAN は全部屋に配備している。無線 LAN については、現在は部分的ではあるがアクセスポイントの設置を行っており、文学部・UTokyo WiFi・eduroam の 3 つのアカウントで使用することができる。

2) ファイアウォールの運用

学外からの不正アクセスやマルウェア感染等による学内の端末から学外への不正な通信を防ぐために、ファイアウォールの設置・運用を行っている。ファイアウォールは文学部 LAN 全体を保護するように構成している。

3) IP アドレスの管理

利用者への IP アドレスの割り当てを管理している。学外に公開が必要な機器のみグローバル IP アドレスの割り当てを行い、それ以外はプライベート IP アドレスによる運用を行っている。

4) SSL-VPN サービス

自宅等の学外から文学部 LAN に安全に接続できる SSL-VPN サービスを提供している。

5) 電話アクセスポイントサービス

文学部 LAN に対して、自宅等から電話回線によってアクセスする環境を提供している。現在、ISDN、PHS (PIAFS32, PIAFS64)、56K アナログモデムによるアクセスを提供している。

2. 多分野交流演習事務局

情報メディア室では、多分野交流演習の事務局を担当し、多分野交流演習の予算管理・執行業務、多分野交流演習ニュースレターを定期的に発行している。

3. 講師の活動

講 師 **西川 賀樹** NISHIKAWA, Yoshiki
在職期間 2010年4月～現在
研究領域 オペレーティングシステム・システムソフトウェア

4. 助教の活動

助 教 安藤 翔伍 ANDO, Shogo
在職期間 2017年4月～現在
研究領域 コンピュータネットワーク
主要業績
(国際会議)

Shogo Ando, Akihiro Nakao. OpenFlow Transparent Custom Action Extension by Using Packet-In and Click Packet Processing. IEEE The 22nd Asia Pacific Conference on Communications (APCC). August. 2016. [Poster]

Shogo Ando, Akihiro Nakao. OpenFlow Transparent Custom Action Extension by Using Packet-In and Click Packet Processing. The 22nd IEEE International Symposium on Local and Metropolitan Area Networks (LANMAN). June. 2016.

6. 情報化と広報

(1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化 (IT 化) は過去 2 年間着実に進歩した。2015 年にリニューアルした人文社会系研究科・文学部 HP では、独自コンテンツの追加を行う等、さらなる充実を図っている。また、引き続き CMS (Content Management System) による管理を行っており、毎年度に CMS を用いた編集方法の講習会を開催して事務部・研究室等からの情報発信を強化している。研究室からのイベント情報等も盛んに発信されるようになった。

IT 化の負の側面としては、不正アクセスや標的型攻撃メール等の問題があるが、情報メディア室を中心として防御体制を固めており、これまでのところ大きな被害を受けることはなかった。ただし、メールサーバへの標的型攻撃メールは非常に多くなっているため、これまでとは異なる新たな迷惑メールフィルタの導入を行った。それにより、大多数の標的型攻撃メールをブロックもしくは隔離することができており、非常に大きな効果を得ることができた。

また、サーバやネットワーク機器等の更新を定期的に行っており、より高速で安定した IT インフラストラクチャの構築を進めている。

(2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部進学者のための『進学ガイダンス』の作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5) 広報用カレンダーの作成、6) 全学広報との連携などであり、多岐にわたっている。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイでは多くの方に参加いただいているが、さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。

<2016・2017年度オープンキャンパス企画>

2016年度

参加者数：模擬講義 565 名、研究室見学ツアー60 名、教員著書展示 323 名、個別相談コーナー75 名
総計 1023 名 (いずれも概数)

企 画：1. 模擬講義 加藤 陽子 (日本史学) 「近代の戦争を史料から考える」
村上 郁也 (心理学) 「日本文学からわかる視覚の仕組み」
白波瀬 佐和子 (社会学) 「超高齢社会・日本の未来：若者に着目して」

2. 研究室見学ツアー

- ①宗教学宗教学研究室、東洋史学研究室
- ②東洋史学研究室、宗教学宗教学研究室
- ③スラヴ語スラヴ文学研究室、社会学研究室
- ④社会学研究室、スラヴ語スラヴ文学研究室

3. 教員著書展示、個別相談コーナー

2017年度

参加者数：模擬講義 854 名、研究室見学ツアー117 名、教員著書展示 371 名、個別相談コーナー100 名
総計 1442 名 (いずれも概数)

企 画：1. 模擬講義 納富 信留 (哲学) 「プラトンの問いかけ」
小林 真理 (文化資源学) 「文化資本と地域格差」
佐藤 宏之 (考古学) 「日本列島の人類文化の起源を探る」

2. 研究室見学ツアー

- ①美学芸術学研究室、国語研究室
- ②国語研究室、美学芸術学研究室
- ③西洋史学研究室、社会心理学研究室
- ④社会心理学研究室、西洋史学研究室

3. 教員著書展示、個別相談コーナー

<2016・2017年度ホームカミングデイ企画>

2016年度

参加者数：約 130 名

企 画：「文(テキスト)の学とは何か」

1. 学部長挨拶 熊野 純彦 文学部長
2. パネルディスカッション

司 会： 野崎 歓 (フランス語フランス文学)

登壇者： 菊地 達也 (イスラム学)

勝田 俊輔 (西洋史学)

高木 和子 (国文学)

佐藤 健二 (社会学)

2017年度

参加者数：約 120 名

企 画：「読むべきか、読まざるべきか——本との新たなつきあい方」

1. 学部長挨拶 佐藤 健二 文学部長
2. パネルディスカッション

司 会： 野崎 歓 (フランス語フランス文学)

登壇者： 渡辺 裕 (美学芸術学)

三枝 暁子 (日本史学)

諏訪部 浩一 (英米文学)

7. 公開講座

(1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第24回、第25回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年1回開催されている。

第24回は平成28年5月26日午後5時から本学名誉教授・平山久雄先生をお招きし「唐詩の韻律—漢文訓読の彼方」と題して講演を頂戴した。先生は、唐詩の韻律は一つの句がリズムカルな流れを作りながら単調平板にならないよう、一つの聯を形成する二つの句が調子を変えて立体的な構成をなすように、また構成美をなすように構成されたものであると定義され、それは詩人を拘束するものではなく詩人の情念を解放するものであったと述べられた。すなわち制約によって逆に詩人の表現を解放するものであったと位置づけられた。韻律の並びによって、詩人の情感が確かに表現されており、漢詩を読むときの見方に变革を迫るようなものであった。

第25回は平成29年5月25日木曜日午後5時から本学名誉教授・元文化庁長官、青柳正規氏（美術史学）をお招きし、「地域と共に生きる文化」と題して講演を頂戴した。先生は文化庁長官をされた時に地方が疲弊し、現在の地域文化が危機に瀕していることを痛感され、文化が豊かさをもたらすという視点から再生を強く念願されるようになった。祭りや伝統芸能から自信と誇りを取り戻した、興味深い地域の再生の例をいくつも挙げられた。「持続可能な方法で如何に改善できるかを考えたい」との先生の言葉に、将来への危機感を逆に感じるとともに、お話しを聞き個人のレベルから自らの問題として関わることの大事さを痛感させられた。

(2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から標記のコロキウムを開催している。本コロキウムは、激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくためには、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものである。このような観点から、当コロキウムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わる様々な分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚りの無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としている。講演は年に数回行っている。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキウム講演記録』として年度ごとに発行している。なお、本コロキウムは公益財団法人住友財団の助成事業として運営されている。2016-2017年度の開催の実績は以下のとおりである。

2016年度

第1回 2016年7月14日（木） 18時30分～20時

講演者：新城 道彦氏（フェリス女学院大学准教授）

講演題目：王族と皇族の結婚：史料にもとづく歴史叙述

第2回 2016年10月28日（金） 18時30分～20時

講演者：鈴木 文子氏（佛教大学教授）

講演題目：植民という日常—ライフ・ヒストリー—のなかの植民地朝鮮の語られ方・描き方

第3回 2017年1月26日（木） 18時30分～20時

講演者：石川 亮太氏（立命館大学教授）

講演題目：朝鮮開港への経済史的アプローチ—自著『近代アジア市場と朝鮮』（名古屋大学出版会、2016年）によせて

第4回 2017年2月23日（木） 18時30分～20時

講演者：六反田 豊氏（東京大学大学院教授）

講演題目：15世紀朝鮮の税穀水運

第5回 2017年3月27日（月） 18時30分～20時

講演者：李 亨眞氏（東京大学特任准教授）

講演題目：植民地期における韓国文学と女性表象—違反のアイコン、転覆のアレゴリー—

2017年度

第1回 2017年7月13日（木） 18時30分～20時

講演者：高麗 文康氏（高麗神社宮司）

講演題目：高麗神社の日韓交流—村の神様の説明書—

- 第2回 2017年10月12日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 伊藤 亜人 氏 (東京大学名誉教授)
 講演題目 : 北朝鮮人民の生活実態—人類学の視点から—
- 第3回 2017年12月15日(金) 18時30分～20時
 講演者 : 川瀬 貴也 氏 (京都府立大学准教授)
 講演題目 : 植民地朝鮮における天道教幹部の対日協力の論理
- 第4回 2018年2月22日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 池内 敏 氏 (名古屋大学教授)
 講演題目 : ひととモノの交流 近世日朝関係史
- 第5回 2018年3月29日(木) 18時30分～20時
 講演者 : 河 宇鳳 氏 (全北大学校名誉教授)
 講演題目 : 通信使の文化交流の新しい様相—1763年癸未通信使行を中心—to—

(3) ところ公開講座

東京大学文学部で附属北海文化研究常呂実習施設の所在する北海道北見市(旧・常呂町)において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では21回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては20回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。(講師所属は講座開催時のもの)

◆第20回 東京大学文学部公開講座

(常呂高校特別講座)

2016年10月7日(金) 13:30-14:40 北海道常呂高校(共催)

「世界文学への誘い ～未踏の沃野のヒロイン、ヒーローは君たちだ～」

沼野 充義(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

(常呂公開講座)

2016年10月7日(金) 18:30-21:00 常呂町公民館

「古文書の様式と身体」

高橋 典幸(東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授)

「自由な文化遺産」

松田 陽(東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授)

◆第21回 東京大学文学部公開講座(常呂遺跡発掘60周年記念講演)

(常呂高校特別講座)

2017年10月13日(金) 13:30-14:40 北海道常呂高校(共催)

「近代の戦争を国民の立場から考える」

加藤 陽子(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

(北見公開講座)

2017年10月13日(金) 18:30-21:00 北見市民会館小ホール

「北からみる日本文化 ～常呂遺跡群調査開始から60年の意義～」

菊池 徹夫(早稲田大学 名誉教授)

「東京大学考古学研究室・常呂研究室と東北アジア」

大貫 静夫(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)

「歴史を活かしたまちづくり」

西村 幸夫(東京大学 大学院工学系研究科 教授)

(4) 文学部公開講座

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう2011年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとした。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

- ◆第7回東京大学文学部公開講座 2016年6月11日(土) 14時～15時30分
『忠臣蔵』と切腹
講 師：古井戸 秀夫 (次世代人文学開発センター)
参加者数：約150名
- ◆第8回東京大学文学部公開講座 2017年6月24日(土) 14時～15時30分
「ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフ—ロシア文学の鬱着たる森を探索する」
講 師：沼野 充義 (現代文芸論)
参加者数：約270名